

北海道大学病院 内科専門研修プログラム (2021年度版)



内科専門医研修プログラム	・	・	・	・	・	・	P. 1
内科専門研修施設群施設概要	・	・	・	・	・	・	資料 1
年次到達目標	・	・	・	・	・	・	資料 2
各種委員会組織表	・	・	・	・	・	・	資料 3

文中に記載されている資料「専門研修プログラム整備基準」「研修カリキュラム項目表」「研修手帳（疾患群項目表）」「技術・技能評価手帳」は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

北海道大学病院内科専門医研修プログラム

目次

1. 北海道大学病院内科専門医研修プログラムの概要
2. 内科専門医研修はどのように行われるのか
3. 専攻医の到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得
5. 学問的姿勢
6. 医師に必要な倫理性，社会性
7. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方
8. 年次毎の研修計画
9. 専門研修の評価
10. 専門研修プログラム管理委員会
11. 専攻医の就業環境（労働管理）
12. 研修プログラムの改善方法
13. 修了判定
14. 専攻医が研修プログラムの修了に向けて行うべきこと
15. 研修プログラムの施設群
16. 専攻医の受け入れ数
17. Subspecialty領域
18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件
19. 専門研修指導医
20. 専門研修実績記録システム，マニュアル等
21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）
22. 専攻医の採用と修了

1. 北海道大学病院内科専門医研修プログラムの概要

【理 念】

- 1) 北海道大学病院は、良質な医療を提供すると共に、優れた医療人を育成し、先進的な医療の開発と提供を通じて社会に貢献することを理念に掲げ、北海道における「最後の砦」病院としての役割を果たしています。さらに、北海道内の研修協力病院とも連携し、人材の育成を進めるとともに、地域医療の充実に向けて様々な取り組みを行っています。本プログラムにおいて当院は、基幹施設として本院の特性を生かし、専門研修や学術活動を通じて専攻医のリサーチマインドを涵養し、次代の医療を担う質の高い内科医を育成します。
- 2) 本プログラムは、北海道大学病院を基幹施設として、北海道全域に所在する連携施設における内科専門研修を経て、北海道の医療事情（特に地域医療）を充分理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行なえる様に研修がなされ、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な内科領域 **Subspecialty** 専門医への道を歩むことを想定して、内科専門医の育成を行います。
- 3) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3～4年間（基幹施設1年間以上且つ、連携施設1年間以上）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度[研修カリキュラム](#)に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 **Subspecialty** 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

【使 命】

- 1) 内科専門医として、(1) 高い倫理観を持ち、(2) 最新の標準的医療を実践し、(3) 安全な医療を心がけ、(4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

【特 性】

- 1) 本プログラムは，北海道大学病院を基幹施設として，北海道全域を研修プログラムの守備範囲とし，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように研修が行われます。研修期間はコースによりますが，基幹施設 1 年間以上且つ，連携施設 1 年間以上の計 3～4 年間になります。
- 2) 本研修プログラムでは，症例をある時点で経験するというだけでなく，主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 専攻医最終年次までに，「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（以下，J-OSLER）に登録できる体制とします。そして可能な限り，「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします。
- 4) 専攻医は，各年次で地域における役割の異なる医療機関で研修し，症例指導医による形成的な指導を通じて，北海道における地域医療を幅広く経験し，内科専門医に求められる役割を実践します。担当指導医は，専攻医の研修進捗状況を定期的に確認し，研修に偏りが生じない様，研修施設の選定などに関してアドバイスをを行います。

【専門研修後の成果】

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し，内科慢性疾患に対して，生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な，地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で，総合内科（Generalist）の視点から，内科系 Subspecialist として診療を実践します。

本プログラムでは北海道大学病院を基幹病院として，多くの連携施設と病院群を形成し，複数の施設での経験を積むことにより，様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 内科専門医研修はどのように行われるのか

- 1) 研修段階の定義：内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（専攻医研修）3～4 年間の研修で育成されます。
- 2) 専門研修の 3～4 年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門医研修カリキュラム」にもとづいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 3) 臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。J-OSLER への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階を up to date に明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

【専門研修 1 年次】

- 症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、20 疾患群以上を経験し、60 症例以上を J-OSLER に登録することを目標とします。
- 病歴要約：専門研修終了に必要な病歴要約を 12 編以上記載して J-OSLER に登録することを目標とします。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価とを 2 回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。
- プログラム：専攻医はプログラムに対する評価を年 1 回行います。プログラム評価は、症例指導医や担当指導医には開示されません。

【専門研修 2 年次】

- 症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、通算で 45 疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し、通算で 120 症例以上を J-OSLER に登録することを目標とします。
- 病歴要約：専門研修終了に必要な病歴要約を通算で 29 編以上記載して J-OSLER に登録することを目標とします。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を 2 回行って態度の評価を行います。専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。
- プログラム：専攻医はプログラムに対する評価を年 1 回行います。プログラム評価は、症例指導医や担当指導医には開示されません。

【専門研修 3～4 年次】

- 症例：主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患群，計 200 症例の経験を目標とします。但し，修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患群，そして 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）とします。この経験症例内容を J-OSLER へ登録します。
- 病歴要約：既に登録を終えた 29 編の病歴要約は，プログラム統括責任者及び（病歴）担当指導医による一次評価を受けます。一次評価を終えた 29 編の病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（査読委員）による査読を受けます。
- 技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を 2 回行って態度の評価を行います。専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善点が図られたか否かを指導医がフィードバックします。また，基本領域専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります。
- プログラム：専攻医はプログラムに対する評価を年 1 回行います。プログラム評価は，症例指導医や担当指導医には開示されません。

【内科研修プログラムの週間スケジュール：基幹施設循環器内科の例】

水色部分は特に教育的な行事です。

	月	火	水	木	金	土・日
午前	受持患者情報の把握	症例検討会	リサーチカンファレンス	受持患者情報の把握		週末日当直 (1 回/月)
	病棟チーム回診		病棟チーム回診			
午後	病棟学生・初期研修医の指導	総回診	病棟学生・初期研修医の指導	病棟学生・初期研修医の指導	病棟学生・初期研修医の指導	
		抄読会				
	診療グループカンファレンス	診療グループカンファレンス	診療グループカンファレンス			内科地方会 (年 3 回)
	循環器外科とのカンファレンス	病理部とのカンファレンス	CPC	診療グループカンファレンス	診療グループカンファレンス	
患者申し送り・当直 (0.5 回/週)						循環器地方会 (年 2 回)

※診療グループカンファレンスについては下記の予定で開催しています。

月：不整脈グループ・心エコーグループ

火：心不全グループ・心臓移植グループ・心エコーグループ

水：心臓カテーテルグループ・成人先天性心疾患グループ・心エコーグループ

木：心臓カテーテルグループ・心エコーグループ

金：心臓カテーテルグループ・画像診断グループ・心エコーグループ

なお、J-OSLER の登録内容と適切な経験と知識の修得状況は、指導医によって承認される必要があります。

【専門研修 1～4 年次を通じて行う現場での経験】

- ① 専攻医 1 年次以降から初診を含む外来（1 回/週以上）を通算で 6 ヶ月以上行います。
 - ② 当直を経験します。
- 4) 臨床現場を離れた学習：①内科領域の救急，②最新のエビデンスや病態・治療法について，専攻医対象のセミナーが開催されており，それを聴講し学習します。受講歴は登録され，充足状況が把握されます。内科系学術集会，JMECC（内科救急講習会）等においても学習します。
 - 5) 自己学習：[研修カリキュラム](#)にある疾患について，内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜 DVD の視聴ができるよう病棟カンファレンスルームまたは医局 IT 室に設備を準備します。また，日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き，内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。自己学習結果については適宜指導医が評価し，研修手帳に記載します。
 - 6) 大学院進学：大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから，臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。臨床系大学院へ進学しても専門医資格が取得できるプログラムも用意されています（項目 8 参照）。

3. 専攻医の到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）

- 1) 3～4 年間の専攻医研修期間で，以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。
 - 1) 70 に分類された各カテゴリーのうち，最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験すること。
 - 2) J-OSLER へ症例（定められた 200 件のうち，最低 160 例）を登録し，それを指導医が確認・評価すること。
 - 3) 29 症例の病歴要約を揃え，プログラム統括責任者及び（病歴）担当指導医による一次評価を受けた後，二次評価において査読委員から合格の判定をもらうこと。
 - 4) 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針を決定する能力，基本領域専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナルリズム，自己学習能力を修得すること。

なお，習得すべき疾患，技能，態度については多岐にわたるため，[研修手帳](#)を参照してください。

2) 専門知識について

[内科研修カリキュラム](#)は総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病および類縁疾患，感染症，救急の 13 領域から構成されています。北海道大学病院には 7 つの内科系診療科があり，そのうち 2 つの診療科（内科 I，内科 II）が複数領域を担当しています。また，救急疾患は各診療科と救急部によって管理されており，北海道大学病院に

においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行ないます。さらに専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。患者背景の多様性に対応するため、地方病院での研修を通じて幅広い活動を推奨しています。

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

- 1) 病棟チーム回診（朝カンファレンス・毎日）：朝、患者申し送りを行い、チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。
- 2) 総回診（毎週）：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。
- 3) 症例検討会（毎週）：診断・治療困難例，臨床研究症例などについて専攻医が報告し，指導医からのフィードバック，質疑などを行います。
- 4) 診療グループカンファレンス（毎日）：診療グループごとに，受持患者の検査予定について打合せを行い，検査結果をもとに今後の治療方針について指導医とディスカッションを行ないます。
- 5) CPC：死亡・剖検例，難病・稀少症例についての病理診断を検討します。
- 6) 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で，患者の治療方針について検討し，内科専門医のプロフェッショナルリズムについても学びます。
- 7) 抄読会・リサーチカンファレンス（毎週）：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し，意見交換を行います。リサーチカンファレンスでは講座で行われている研究について討論を行い，学識を深め，国際性や医師の社会的責任について学びます。
- 8) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは，自分の知識を整理・確認することにつながることから，当プログラムでは，専攻医の重要な取組と位置づけています。

5. 学問的姿勢

患者から学ぶという姿勢を基本とし，科学的な根拠に基づいた診断，治療を行います（evidence based medicine の精神）。最新の知識，技能を常にアップデートし，生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また，日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため，症例報告あるいは研究発表を奨励します（最低年1回，全国学会あるいは海外学会での発表を目指します）。論文の作

成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。

これらの学問的姿勢を涵養するため、臨床系大学院への進学希望者には、早ければ専攻医 3 年次に大学院入学の機会が与えられます。また、北海道大学病院では、医療端末や共用 PC など種々のオンライン教材（DynaMed[®]、今日の臨床サポート[®]、Procedures Consult[®]）を利用しやすい環境が整備されており、医学英語や文献検索などに関するセミナーの受講機会も与えられます。

6. 医師に必要な倫理性，社会性

入院症例だけでなく外来での診療を通して、医師の基本となる能力，知識，スキル，行動について、医療現場から学びます。基幹施設，連携施設を問わず、学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。

インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度，患者への説明，予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療，カルテ記載，病状説明など）を果たし，リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

また，医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため，年に 2 回以上の医療安全講習会，感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録され，年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされ，受講を促されます。

7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

北海道大学病院（基幹病院）において症例経験や技術習得に関して，単独で履修可能であっても，連携施設において，地域住民に密着し，病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより，地域医療を実施します。そのため 2～3 年間の連携施設での研修期間を設け，複数施設で経験を積みます。主に基幹施設で研修不十分となる領域を研修します。詳細は項目 8 を参照してください。

地域における指導の質および評価の正確さを担保するため，常にメールなどを通じて研修センターと連絡ができる環境を整備し，適宜プログラムの進捗状況について指導医の確認を受け，進捗状況について問題があれば必要に応じて基幹病院を訪れて指導医との面談を実施します。

本プログラムでは連携病院へのローテーションを行うことで，地域においては，人的資源の集中を避けることとなり，出向先の地域医療レベル維持に貢献します。

8. 年次毎の研修計画

専攻医は研修開始時に，北海道大学病院の 7 つの内科系診療科のいずれかに原則として所属していただき，北海道大学病院あるいは連携施設で研修を開始していただきます。本プログラムでは，「サブスペシャリティ重点研修<A>コース」での研修を推奨していますが，Subspecialty 専攻科によっては他のコースの選択も可能です（次頁一覧表参照）。

研修コースに関する希望は、プログラム応募時に申請していただきますが、Subspecialty 専門医へのキャリアパスを考慮しつつ、採用面接などを通じて応募者（専攻医）と相談しながら、研修コースが決定されます（項目 22 参照）。

プログラム応募時までに、Subspecialty 専攻科を絞り切れない場合は、「ジェネラル研修<D>コース」で研修を開始していただくことが可能ですが、連携施設での研修において一部制限が生じる場合がありますのでご注意ください。

サブスペ専攻科（内科系診療科）における研修コース一覧表				
サブスペ専攻科 ◎：選択推奨 ○：選択可能 ×：選択不可	プログラム応募時に専攻医は各診療科に所属			非所属
	サブスペ重点研修 <A>コース <small>（混合タイプに相当）</small>	サブスペ重点研修 コース <small>（サブスペ重点2年型に相当）</small>	サブスペ重点研修 <C>コース <small>（サブスペ重点1年型に相当）</small>	ジェネラル研修 <D>コース <small>（内科標準タイプに相当）</small>
	内科Ⅰ <small>（呼吸器内科／循環器・代謝内科）</small>	○	◎	◎
内科Ⅱ <small>（膠原病内科／腎臓内科／代謝・内分泌内科）</small>	○	◎	◎	○
消化器内科	○	◎	◎	○
循環器内科	◎	○	×	○
血液内科	◎	◎	◎	○
腫瘍内科	○	◎	◎	○
神経内科	◎	◎	○	○

各研修コースの詳細と特徴を以下に記します。尚、研修開始後のコース変更については、専攻医の到達度など、研修委員会において専攻医がプログラムをきちんと修了できるかどうかの観点で審議し、正当な理由があると判断される場合には特例として認められますが、コース選択に当たっては十分考えたうえで申請する様にしてください。

1) サブスペシャルティ重点研修<A>コース

サブスペ重点研修Aコース※	医師経験年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
	研修内容	●初期臨床研修		●内科専門研修 <small>（サブスペ専門研修の中で実施）</small>			●サブスペ専門研修		<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;">修了判定</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; margin-top: 5px;">内科専門医試験受験可</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-top: 5px;">サブスペ専門医試験受験可*</div>		
	研修施設			北大病院では原則1年研修（最大3年研修可能） 連携施設は1施設3ヵ月以上研修（順序や施設数は任意）			*内科専門医試験にパスしなければ受験は無効				
	症例登録	80症例まで登録可能		各領域偏りなく80～120症例登録必要			<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; color: red;">不足する領域の症例は北大病院研修中にローテートして補完</div>				

※内科学会モデルコース「内科・サブスペシャルティ混合タイプ」に相当

専攻医1年次～4年次の4年間、北海道大学病院と連携施設で内科専門研修とSubspecialty 専門研修を並行して行います。北海道大学病院での研修は1年以上3年以下で、残りの期間は連携施設で研修します。北海道大学病院での研修時期は、研修の進捗状況を勘案して、専攻医と

Subspecialty 専攻科が相談して決定します。

専攻医は Subspecialty 指導医や上級医師から、Subspecialty 専門領域での知識・技術を学習するのみならず、内科医としての基本姿勢を体得することにより、内科専門医取得へのモチベーションを強化することができます。また、北海道大学病院での研修中は、研修進捗状況を参考に初期研修期間を含め過去に経験しなかった内科領域の診療科を原則として2～3ヶ月間ローテートして、内科系診療領域全般において診療経験する様に努めます。

尚、専門医資格の取得と同時に臨床系大学院への進学を希望する場合は、所属する内科系診療科と協議の上、大学院入学も可能です（入学時期は次頁表参照）。

本コースでは上記のごとく、遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に研修計画が工夫されており、専攻医は卒後6年で内科専門医と Subspecialty 専門医の両方を取得することができ、さらに大学院進学者は課程修了後に海外留学の道も開かれています。

サブスペ専攻科（内科系診療科）における大学院入学時期			
サブスペ専攻科	プログラム応募時に専攻医は各診療科に所属		
	サブスペ重点研修 <A>コース	サブスペ重点研修 コース	サブスペ重点研修 <C>コース
	(混合タイプに相当)	(サブスペ重点2年型に相当)	(サブスペ重点1年型に相当)
内科Ⅰ (呼吸器内科/循環器・代謝内科)	卒後5年目以降	卒後5年目以降	卒後5年目以降
内科Ⅱ (膠原病内科/腎臓内科/代謝・内分泌内科)	原則として 卒後5年目	原則として 卒後5年目	原則として 卒後5年目
消化器内科	卒後5年目以降	卒後5年目以降	卒後5年目以降
循環器内科	卒後5年目以降	卒後5年目以降	—
血液内科	卒後5年目以降	卒後5年目以降	卒後5年目以降
腫瘍内科	卒後5年目以降	卒後5年目以降	卒後5年目以降
神経内科	卒後5年目以降	卒後5年目以降	卒後5年目以降

2) サブスペシャリティ重点研修コース

サブスペ重点研修Bコース※	医師経験年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
	研修内容	●初期臨床研修		●内科専門研修（並行研修）							●サブスペ専門研修*	
	研修施設	1年間内科専門研修（タイミングは不問） ↓ ・大学病院で各科ローテート ・連携施設での一般内科研修		北大病院では原則1年研修（最大2年研修可能） 連携施設は1施設3ヵ月以上研修 （順序や施設数は任意）			*サブスペ領域毎に症例登録の取扱いが異なる可能性があり確認要					
	症例登録	80症例まで登録可能		各領域偏りなく80～120症例登録必要								

※内科学会モデルコース「サブスペシャリティ重点研修タイプ（2年型）」に相当

専攻医 1 年次～3 年次の 3 年間、北海道大学病院と連携施設で内科専門研修を中心に、Subspecialty 専門研修を一部並行して行います（合計 2 年相当）。北海道大学病院での研修は 1 年以上 2 年以下で、残りの期間は連携施設で研修します。北海道大学病院での研修時期は、研修の進捗状況を勘案して、専攻医と Subspecialty 専攻科が相談して決定します。

専攻医は Subspecialty 指導医や上級医師から、Subspecialty 専門領域での知識・技術を学習するのみならず、内科医としての基本姿勢を体得することにより、内科専門医取得へのモチベーションを強化することができます。また、北海道大学病院での研修中は、研修進捗状況を参考に初期研修期間を含め過去に経験しなかった内科領域の診療科を原則として 2～3 ヶ月間ローテートして、内科系診療領域全般において診療経験する様に努めます。

尚、専門医資格の取得と同時に臨床系大学院への進学を希望する場合は、所属する内科系診療科と協議の上、大学院入学も可能です（入学時期は前頁参照）。

本コースでは上記のごとく、遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に研修計画が工夫されており、専攻医は卒後 5 年で内科専門医を取得することができ、その後 Subspecialty 専門医取得に向けて、スムーズに専門研修を開始することができます。また、大学院進学者は課程修了後に海外留学の道も開かれています。

3) サブスペシャリティ重点研修<C>コース

サブ ス ペ 重 点 研 修 C コ ー ス ※	医師経験 年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	研修内容		●初期臨床研修		●内科専門研修（並行研修）			●サブスペ 専門研修*		
研修施設		2年間内科専門研修 (タイミングは不問) ↓ ・大学病院で各科ローテート ・連携施設での一般内科研修		北大病院では原則 1 年研修（最大 2 年研修可能） 連携施設は 1 施設 3 ヶ月以上研修 (順序や施設数は任意)			*サブスペ領域毎に症例登録の取扱いが異なる可能性があり確認要			
症例登録		80 症例まで登録可能		各領域偏りなく 80～120 症例登録必要						

※内科学会モデルコース「サブスペシャリティ重点研修タイプ（1 年型）」に相当

専攻医 1 年次～3 年次の 3 年間、北海道大学病院と連携施設で内科専門研修を中心に、Subspecialty 専門研修を一部並行して行います（合計 1 年相当）。北海道大学病院での研修は 1 年以上 2 年以下で、残りの期間は連携施設で研修します。北海道大学病院での研修時期は、研修の進捗状況を勘案して、専攻医と Subspecialty 専攻科が相談して決定します。

専攻医は Subspecialty 指導医や上級医師から、Subspecialty 専門領域での知識・技術を学習するのみならず、内科医としての基本姿勢を体得することにより、内科専門医取得へのモチベーションを強化することができます。また、北海道大学病院での研修中は、研修進捗状況を参考に初期研修期間を含め過去に経験しなかった内科領域の診療科を原則として 2～3 ヶ月間ローテートして、内科系診療領域全般において診療経験する様に努めます。

尚、専門医資格の取得と同時に臨床系大学院への進学を希望する場合は、所属する内科系診

療科と協議の上、大学院入学も可能です（入学時期は前頁参照）。

本コースでは上記のごとく、遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に研修計画が工夫されており、専攻医は卒後5年で内科専門医を取得することができ、その後 Subspecialty 専門医取得に向けて、スムーズに専門研修を開始することができます。また、大学院進学者は課程修了後に海外留学の道も開かれています。

4) ジェネラル研修<D>コース

内科 D コース ※ 研修	医師経験 年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
	研修内容	●初期臨床研修		●内科専門研修							修了判定	
	研修施設			北大病院では原則1年研修（最大2年研修可能） 連携施設は1施設3ヵ月以上研修 （順序や施設数は任意）							内科専門医試験受験可	
	症例登録	80症例まで登録可能		各領域偏りなく80～120症例登録必要								

※内科学会モデルコース「内科標準タイプ」に相当

専攻医1年次～3年次の3年間、北海道大学病院と連携施設で内科専門研修を行います。北海道大学病院での研修は1年以上2年以下で、専攻医1年次は必ず北海道大学病院で研修を行うこととし、専攻医の希望により2年次あるいは3年次も研修を行うことが可能です。残りの期間は連携施設で研修しますが、研修の進捗状況を勘案して専攻医と臨床研修センターが相談して決定します。

専攻医は指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず、各領域での知識・技術を学習することにより、内科専門医取得へのモチベーションを強化することができます。また、北海道大学病院での研修中は、研修進捗状況を参考に初期研修期間を含め過去に経験しなかった内科領域の診療科を原則として2～3ヶ月間ローテートして、内科系診療領域全般において診療経験する様に努めます。

本コースでは上記のごとく、遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に研修計画が工夫されており、専攻医は卒後5年で内科専門医を取得することができ、専攻医の希望により、その後 Subspecialty 専門医取得に向けて、専門研修を開始することができます。

9. 専門研修の評価

1) 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が J-OSLER に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に1回以上、目標の達成度や各指導

医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。

研修センターは指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

2) 総括的評価

専攻医研修最終年次の3月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

この修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

3) 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ（病棟看護師長、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士など）から、接点の多い職員を複数名指名し、毎年3月に評価します。評価法については別途定めるものとします。

4) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、適宜指導医による面談を行って、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

10. 専門研修プログラム管理委員会

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を北海道大学病院内に設置し、その委員長と各内科から1名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

2) JMECC 運営委員会

本プログラムを履修するすべての専攻医に責任をもって JMECC の受講機会を提供するため、JMECC 運営委員会を北海道大学病院内に設置し、JMECC インストラクターの養成も含めて JMECC 開催など運営全般を担当します。

11. 専攻医の就業環境（労務管理）

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。

労働基準法を順守し、北海道大学病院の「※専攻医就業規則及び給与規則」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

※ 本プログラムでは基幹施設、連携施設の所属の如何に関わらず、基幹施設である北海道大学病院の統一的な就業規則と給与規則で統一化していますが、このケースが標準系ということではありません。個々の連携施設において事情は様々ですが、専攻医に配慮のある明確な諸規則を用意いたします。

12. 専門研修プログラムの改善方法

定期的に研修プログラム管理委員会を北海道大学病院にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。

サイトビジット（ピアレビュー）に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。

13. 修了判定

J-OSLER に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

- 1) 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録しなければなりません。
- 2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
- 3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表、また、内科系の学術集会や企画に参加すること。
- 4) JMECC 受講
- 5) プログラムで定める講習会受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適性に疑

問がないこと。

14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと

専攻医はプログラム修了申請書（様式未定）を専門医認定申請前年の12月末までにプログラム管理委員会に送付してください。プログラム管理委員会は専門医認定申請年3月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

15. 研修プログラムの施設群

北海道大学病院が基幹施設となり、資料1に挙げられた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。

16. 専攻医の受入数

北海道大学病院における専攻医の上限（学年分）は60名です。

- 1) 北海道大学病院は2018年度38名、2019年度48名、2020年度35名の受入実績があります。
- 2) 北海道大学病院には各診療科に割り当てられた雇用人員数に応じて、募集定員を1診療科あたり数名の範囲で調整することは可能です。
- 3) 剖検体数は2017年度17体です。
- 4) 経験すべき症例数の充足度については、内科系各診療科における入院患者（下表参照）のDPC病名をもとに各領域の疾患群充足度を分析したところ、全70疾患群全てにおいて充足可能でした。

表. 北海道大学病院内科系診療科別診療実績

2016年度実績	入院延患者数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
内科Ⅰ	16026	22,454
内科Ⅱ	15985	48,536
消化器内科	15873	43635
循環器内科	11861	13,823
腫瘍内科	6570	4,196
血液内科	13719	13,505
神経内科	8759	15,376

17. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で決定する「所属診療科」は、将来目指す Subspecialty 領域をもとに選択することになります。内科専門医研修修了後は、各 subspecialty 領域の専門医取得を目指します。

18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件

- 1) 出産，育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 カ月とし，研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6 か月以上の休止の場合は，未修了とみなし，不足分を予定修了日以降に補うこととします。また，疾病による場合も同じ扱いとします。
- 2) 研修中に居住地の移動，その他の事情により，研修開始施設での研修続行が困難になった場合は，移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際，移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

19. 専門研修指導医

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し，評価を行います。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を公表する（first author もしくは corresponding author であること）。もしくは学位を有していること。
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること。
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること。

【選択とされる要件：下記の 1，2 いずれかを満たすこと】

1. CPC，CC，学術集会（医師会含む）などへ主導的立場として関与・参加すること
2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読，JMECC のインストラクターなど）

20. 専門研修実績記録システム，マニュアル等

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は別添の専攻医研修実績記録に研修実績を記載し，指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総括的評価は臨床検査専門医研修カリキュラムに則り，少なくとも年 1 回行います。

21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）

研修プログラムに対して日本内科学会からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価はプログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改良を行います。

22. 専攻医の採用と修了

1) 採用方法

北海道大学内科専門研修プログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『北海道大学病院内科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。

申請書は(1) 北海道大学病院臨床研修センターWeb (<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/sotsugo/>)よりダウンロード、(2) e-mail で問い合わせ (senmoni@huhp.hokudai.ac.jp)、のいずれの方法でも入手可能です。原則として書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については直近の北海道大学内科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

2) 研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の4月1日までに以下の専攻医氏名報告書を、北海道大学内科専門研修プログラム管理委員会および、日本専門医機構内科領域研修委員会に提出します。

- 専攻医の氏名と医籍登録番号、内科医学会会員番号
- 専攻医の卒業年度、(地域卒卒業生該当の有無を含む)専攻医の研修開始年度
- 専攻医の履歴書(様式15-3号)
- 専攻医の初期研修修了証

3) 研修の修了

全研修プログラム終了後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。審査は書類の点検と面接試験からなります。点検の対象となる書類は以下の通りです。

- (1) 専門研修実績記録
- (2) 「経験目標」で定める項目についての記録
- (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
- (4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます。

以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

北海道大学病院内科専門研修プログラム 研修施設群施設概要

1) 専門研修基幹施設（北海道大学病院）

専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります（DynaMed®, 今日の臨床サポート®, Procedures Consult®が利用可能です）。 ・北海道大学病院後期研修医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（保健センター）が北海道大学にあります。また、専門カウンセラーによるメンタルヘルスカウンセリング（対面・電話・Web）も利用することができます。 ・ハラスメント委員会が北海道大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室、女性専用宿舎が整備されています。 ・北海道大学敷地内に保育所が 2 施設あるほか、院内に病後児保育室もあり利用が可能です。
専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 65 名在籍しています（下記）。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行なう（2017 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 14 回、感染対策 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行なう（2017 年度実績 15 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 17 体）を行っています。
学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 16 演題の学会発表（2017 年度実績）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行なう（2017 年度実績 13 回）しています。 ・臨床研究開発センターが設置され、定期的に行なう治験審査委員会と自主臨床研究審査委員会を開催（2017 年度実績各 12 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表することを積極的に推奨しており、指導医による和文・英文論文の作成指導によって、筆頭著者としての執筆が定期的に行なわれています。
指導責任者	<p>豊嶋 崇徳</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>北海道大学病院は、良質な医療を提供すると共に、優れた医療人を育成し、先進的な医療の開発と提供を通じて社会に貢献することを理念に掲げ、北海道における「最後の砦」病院としての役割を果たしています。さらに、北海道内の研修協力病院とも連携し、人材の育成を進めるとともに、地域医療の充実に向けて様々な取り組みを行っています。</p> <p>本プログラムにおいて当院は、基幹施設として本院の特性を生かし、主にサブスペシャリティ専門研修や学術活動を通じて専攻医のリーディングマインドを涵養し、質の高い内科医を育成します。専攻医が希望すれば、早ければプログラム 3 年次に進む段階で、本学大学院に入学することも可能です。このように本プログラム基幹施設と密接に連携しながら、次代の医療を担う優れた医療人を育成することを目指しています。本院の自由な雰囲気のもと、多くの専攻医の皆さんが研鑽を積まれることを願っております。</p>

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 65 名，日本内科学会総合内科専門医 37 名 日本消化器病学会消化器専門医 17 名，日本肝臓学会専門医 6 名， 日本循環器学会循環器専門医 9 名，日本内分泌学会専門医 3 名， 日本糖尿病学会専門医 5 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名，日本血液学会血液専門医 7 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名， 日本リウマチ学会専門医 5 名，救急医学会専門医 1 名
外来・入院患者数	内科外来患者 48166 名（1ヶ月平均） 内科入院患者 24242 名（1ヶ月平均数）（H29年4月～12月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 ICD 認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

2) 専門研修連携施設

1. 国家公務員共済組合連合会 斗南病院

<p>認定基準</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。2016年10月に新病院がオープンし、環境（ハード面）が格段に改善されました。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国家公務員共済組合連合会非常勤医師として常勤医師同等の労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する相談員が2名任命されています。 ・ハラスメントの防止等に関する規程が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室，更衣室，当直室が整備されています。
<p>認定基準</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が17名在籍しています。 ・専攻医プログラム委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2019年度実績 医療安全10回，感染対策4回）し，専攻医に各2回以上の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）に定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2019年度実績2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2019年度実績 臨床病理検討会（オープンカンファレンス）12回）を定期的開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，アレルギー，膠原病，感染症，救急の12分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2019年度実績2体）を行っています。
<p>認定基準</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で最低でも1演題以上の学会発表をしています。消化器病，消化器内視鏡，腫瘍内科，リウマチ，血液関連の学会に多数の発表を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し，定期的開催（2019年度実績11回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的治験審査委員会を開催（2019年度実績11回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>近藤 仁</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>道内屈指のがん専門病院において，がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療，インターベンショナルラジオロジーに加え，在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。国立がん研究センター中央病院での研修を活かし，今後さらに重要性が増すがん診療含め，幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 13 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本消化器病学会消化器専門医 12 名, 日本循環器学会循環器専門医 3 名, 日本糖尿病学会専門医 1 名, 日本血液学会血液専門医 4 名, 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名, 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名, 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 12 名, 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名,
外来・入院患者数	外来延べ患者 13,154 名うち内科 6,783 名 (1 ヶ月平均) 入院延べ患者 6645 名 うち内科 3482 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます. とくに総合内科, 消化器, 内分泌, 血液, 膠原病などの疾患群は豊富です.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会指定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 その他

2. N T T 東日本札幌病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・N T T 東日本札幌病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・院内に病児保育所があり，利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 11 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，感染症および救急を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	吉岡 成人 【内科専攻医へのメッセージ】 N T T 東日本札幌病院は札幌市の中心的な急性期病院であり，北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名，日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名， 日本内分泌学会専門医 2 名，日本糖尿病学会専門医 3 名， 日本腎臓病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名， 日本血液学会血液専門医 1 名，日本リウマチ学会専門医 1 名， 日本心血管インターベンション学会専門医 2 名， 日本透析医学会専門医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 1 名， 日本大腸肛門病学会専門医 1 名，日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,852 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 3,250 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

療・診療連携	
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本ステントグラフト実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

3. J A北海道厚生連札幌厚生病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修指定病院の指定を受けています。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・診療医としての労務環境が補償されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（院内の相談窓口・外部ホットライン）があります。 ・監査・コンプライアンス室が厚生連本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・子供を持つ専攻医が利用できる、病児日帰り入院制度があります。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 35 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2014 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 11 体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2014 年度実績 3 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	<p>本谷 聡</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>札幌を代表する総合病院として、内科サブスペシャリティ領域における適切な診断プロセス、最も効果が高い治療ストラテジーの思考・構築を経験することができます。</p> <p>また地域がん診療連携拠点病院として、先端的治療から緩和ケアまで、人間味のある幅広い臨床医としての経験ができます。技能と知識に裏付けされた、深みのある人間性を有した優れた内科医を目指しましょう。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 23 名、日本肝臓学会肝臓専門医 8 名、</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 1 名、</p> <p>日本糖尿病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、</p> <p>日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会専門医 1 名、ほか</p>
外来・入院患者数 (延べ)	<p>外来患者 28,074 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 13,033 名 (1 ヶ月平均)</p>

経験できる疾患群	<p>1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，全て疾患を経験でき，緩和ケアについても経験できます。</p> <p>2) 消化器疾患のうち，炎症性腸疾患は多数の症例を有し，現実に経験ができます。</p>
経験できる技術・技能	消化器及び呼吸器内視鏡診断，診療技術，循環器に対するインターベンショナルラジオロジー等の技術，技能が修得できます。
経験できる地域医療・診療連携	JA 北海道厚生連の，地域医療活動を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会内科認定医制度教育病院</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本甲状腺学会認定専門医施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本大腸肛門病学会認定施設</p> <p>日本消化器がん検診学会認定指導施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本消化管学会胃腸科指導施設</p> <p>日本カプセル内視鏡学会指導施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p> <p>日本神経学会認定准教育施設</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設</p> <p>日本脈管学会認定研修指定施設</p> <p>日本透析医学会教育関連施設</p> <p>日本病理学会研修認定施設 B</p> <p>日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働施設</p> <p>基幹型臨床研修病院</p> <p>地域がん診療連携拠点病院</p> <p>など</p>

4. 市立札幌病院

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・原則として、札幌市非常勤職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスについては、院内の部署（総務課職員係）が対応する他、札幌市役所が設置する札幌市職員健康相談室等に相談することができます。 ・更衣室、シャワー室、休憩スペース等を整備しており、女性専攻医が安心して勤務することができます。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 30 名在籍しています。 ・基幹施設において専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会、研修施設群合同カンファレンス、CPC、地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応します。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催しています。 ・治験管理部門を設置し、定期的な受託研究に係る審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>副院長 向井 正也</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立札幌病院のプログラムに興味を持っていただき、ありがとうございます。</p> <p>当院は札幌市の中心部に位置し、高度急性期を担う地域医療支援病院として地域完結型の医療を行っている医療機関です。</p> <p>内科は 9 科に分かれ、内科のすべての領域について当院のみで研修することができます。また、当院で経験することの少ない一般的な疾患についてはいくつかの関連病院と連携しておりますので、最低 1 年間の関連病院での研修で十分に経験することが可能です。さらに subspeciality に向けた症例は当院で豊富に経験することができ、内科各科の専門医の取得にも有利な環境です。</p> <p>院内他科はほぼ全領域の診療科を有し、他科との連携も電話 1 本で気軽に相談できる環境にあり、各科で助け合うことのできるチームワークの優れた医療機関です。ぜひ当院での内科専門医取得に向けた研修を行っていただ</p>

	き、一緒に働けることを期待しております。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 30 名，日本内科学会総合内科専門医 12 名， 日本消化器病学会専門医 8 名，日本循環器学会専門医 3 名， 日本糖尿病学会専門医 4 名，日本腎臓学会専門医 3 名， 日本呼吸器学会専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 5 名， 日本神経学会専門医 3 名，日本アレルギー学会専門医 1 名， 日本リウマチ学会専門医 2 名，日本内分泌学会専門医 2 名， 日本脳卒中学会専門医 2 名，日本臨床細胞学会専門医 1 名 日本救急医学会専門医 1 名，日本肝臓学会専門医 3 名， 日本甲状腺学会専門医 2 名，日本消化器内視鏡学会専門医 9 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 405,721 名，入院患者 16,040 名 (2014 年度)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院，日本老年医学会認定施設，日本消化器病学会認定施設，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設，日本呼吸器学会認定施設，日本血液学会認定血液研修施設，日本腎臓学会研修施設，日本リウマチ学会教育施設，日本透析医学会専門医制度認定施設，日本神経学会教育関連施設，日本アレルギー学会認定教育施設，日本救急医学会救急科専門医指定施設，日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設，日本臨床腫瘍学会認定研修施設，日本消化器内視鏡学会指導施設，日本がん治療認定医機構認定研修施設，日本糖尿病学会認定教育施設，日本高血圧学会専門医認定施設など

5. 医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・JCI(Joint Commission International)の認定病院です。 ・JCEP(卒後臨床研修評価機構)の認定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・札幌東徳洲会病院 常勤または非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は9名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(循環器内科副院長)、プログラム管理者(消化器内科副院長)(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム準備委員会)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2019年度実績12回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(札幌東徳洲会病院と救急隊の救急医療合同カンファレンス、札幌東徳洲会病院主催のCPC検討会、札幌東徳洲会病院GIMカンファレンス)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設(帯広徳洲会病院、ひまわりクリニックきょうごく)の専門研修では、電話や週1回の札幌東徳洲会病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を致します。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくとも7分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも35以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2019年度実績9体、2018年度実績10体)を行っています。
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当院は臨床研究センターを有しており、臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に医学系研究倫理審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>山崎誠治 【内科専攻医へのメッセージ】 札幌東徳洲会病院は、北海道札幌市医療圏の中心的な急性期病院であり、連携施設の旭川医科大学病院 市立旭川病院 旭川厚生病院 旭川赤十字病院 名寄市立総合病院 遠軽厚生病院 町立中標津病院 帯広徳洲</p>

	会病院 ひまわりクリニックきょうごくで構成している。特別連携施設のひまわりクリニックきょうごくからなる施設群で内科専門研修を行い、救急医療から高度先進医療または地域医療にも十分貢献できる研修プログラムを作成し、専攻医の先生には内科専門医を目指して頂きます。また当院は診療科間の垣根が低く、先生同士のコミュニケーションが取りやすい環境や、基幹病院の環境を活かして、密度の濃い充実した内科専門医研修を提供しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9名, 日本内科学会総合内科専門医 6名, 日本消化器病学会消化器専門医 8名, 日本消化器内視鏡学会専門医 8名, 日本循環器学会循環器専門医 5名, 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医 4名, 日本心血管インターベンション治療学会認定医 4名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名, 日本血液学会血液専門医 1名, 日本神経学会神経内科専門医 1名, 日本アレルギー学会専門医 (内科) 3名, 日本救急医学会救急科専門医 5名, ほか
外来・入院 患者数	入院患者実数 9,514名/年(内科系 4,668名) 新外来患者数 26,842名/年(内科系 7,615名)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 一般社団法人日本禁煙学会認定教育施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設(関連) 日本大腸肛門病学会認定施設 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 日本肝臓学会認定施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 公益社団法人日本リハビリテーション医学会研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼動認定施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム(ver. 2.0) 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本認知症学会教育施設

6. 天使病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修指定病院（基幹型）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・天使病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する委員会（衛生委員会）があります。 ・ハラスメント委員会はありませんが、コンプライアンス委員会を設置し、職員の意見を吸い上げる体制を整備しております。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 12 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策・医療倫理に関する講習会を定期的開催（2019 年度実績 医療安全 4 回、感染対策 2 回、医療倫理 0 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2019 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し定期的開催しています。 ・治験管理部門を設置し、定期的審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>吉田 和博</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>天使病院は札幌市の中心部に位置し、急性期一般病棟 260 床を有しています。1911 年の開設以来、1 世紀を越えて地域の中核病院としての役割を担っています。北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本呼吸器学会専門医 2 名</p> <p>日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名</p> <p>日本消化器病学会専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名</p> <p>日本老年医学会専門医 1 名ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 13,224 名（1 ヶ月平均） 入院患者 174 名（1 日平均）</p>
経験できる疾患群	<p>稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、57 疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院， 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設， 日本消化器病学会専門医制度修練施設， 日本循環器学会循環器専門医研修施設， 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設， 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 など

7. KKR 札幌医療センター

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・KKR札幌医療センター非常勤医師として常勤医師同等の勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する相談員が4名任命されています。 ・ハラスメントの防止等に関する規定が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に病児保育施設が整備予定（平成29年3月）であり、利用可能です。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が16名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長、内科指導医）、プログラム管理者（呼吸器科部長、総合内科専門医・指導医）：基幹施設、連携施設に設置されてる研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2017年度予定）を設置します。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療安全2回、感染対策3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的で開催（2015年度実績9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 札幌市医師会症例検討会3回、南部救急フォーラム1回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け義務づけるとともに発表者となることもあります。そのために時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実施調査に臨床研修センター（2017年度予定）が対応します。 ・特別連携施設の研修では、電話、メールなどを活用して専攻医と連絡し、研修状況を把握するとともに指導を行います。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち少なくとも8分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、インターネット環境、虎の門病院中央図書室を通じて文献検索などが出来ます。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会、内科系学会に年間で計10演題以上の学会発表（2014年度内科学会北海道地方会1演題、内科系学会21演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2015年度実績11回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的な治験審査委員会を開催（2015年度実績6回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。

指導責任者	齋藤 拓志 【内科専攻医へのメッセージ】 KKR 札幌医療センターは札幌市南部に位置する急性期基幹病院です。札幌医療圏、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行います。このプログラムを通じて、内科医師のキャリアアップの一步となるとともに、地域医療を支える医師あるいは研究を目指すことも出来るような基盤形成になることができるよう研修をすすめていきたいと思ひます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名, 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名, 日本循環器学会循環器専門医 3 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名, 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名, 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 4 名, 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名, 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 2 名, 日本緩和医療学会 暫定指導医 2 名, 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 6 名, 日本がん治療認定医機構 暫定教育医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 21,705.7 名うち内科 7,354.9 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 956.2 名うち内科 344.5 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 など

8. 独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・JCHO 北海道病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当, 医師）があります。 ・ハラスメント委員会が JCHO 北海道病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワールーム, 当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり, 利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 14 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2018 年度実績 医療倫理 1 回（複数回開催）, 医療安全 2 回（各複数回開催）, 感染対策 2 回（各複数回開催））し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2018 年度実績 3 回）し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績 病診, 病病連携カンファレンス 6 回）を定期的に参加し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 神経, 血液を除く 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）を予定しています。
指導責任者	<p>古家 乾</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>JCHO 北海道病院は北海道札幌市豊平区にあり, 急性期一般病棟 312 床（消化器, 腎・膠原病, 呼吸器, 周産期医療の各 4 センターを含む）, 結核病床 46 床合計 322 床を有し, 健康管理センター, 介護老人福祉施設を併設し, 地域の医療・保健・福祉を担っています。国立病院機構北海道医療センター基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い, 内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 8 名, 日本内科学会総合内科専門医 9 名, 日本消化器病学会消化器専門医 4 名, 日本内分泌学会内分泌専門医 1 名, 日本腎臓学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名, 日本感染症学会感染症専門医 1 名, 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名, 日本リウマチ学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 626 名（1 日平均） 入院患者 228 名（2018 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設

9. 独立行政法人地域医療機能推進機構 札幌北辰病院

専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・札幌北辰病院後期研修医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室 が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用が可能です。
専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 9 名在籍しています。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2014 年度実績 医療安全 3 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2014 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌代謝、腎臓、呼吸器、血液、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に演題の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2014 年度実績 4 回）しています。 ・臨床研究開発センターが設置され、定期的に治験審査委員会と自主臨床研究審査委員会を開催（2014 年度実績各 12 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表することを積極的に推奨しており、指導医による和文・英文論文の作成指導によって、筆頭著者としての執筆が定期的に行われています。
指導責任者	<p>吉田 純一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>研修医師が、プライマリケアの第一線臨床医、高度の専門医に必要とされる医療に関する基本的知識・技術はもとより、患者の人格を尊重する倫理観を身に付け、多様化する医療ニーズに応え得る力量を兼ね備え、地域に密着した信頼される医師を養成することを目的とします。</p> <p>比較的ゆつくりとした環境で、自ら計画しての研修が可能です。また、JCHO は全国 57 病院あり将来的には病院間で研修を行える楽しみもあります。頑張りましょう。</p>
指導医数（常勤医）	<p>日本内科学会認定内科医 8 名、 日本内科学会総合内科専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、 日本プライマリ・ケア連合学会認定医 4 名、 日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医／指導医 1 名 日本肝臓学会専門医 2 名、日本血液学会専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本透析学会専門医 1 名、 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名、</p>

	日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名, 日本腎臓学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 13,914 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 5,262 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本病理学会認定病院 B 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設認定病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 など

10. 社会医療法人北楡会 札幌北楡病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度協力型病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・札幌北楡病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 12 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2019 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 1 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2020 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2019 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2020 年度予定）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液内科、消化器内科および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>太田 秀一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>札幌北楡病院は北海道札幌市白石区にあり、急性期一般病棟 272 床、緩和ケア病棟 9 床の合計 281 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。 ※北海道大学を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本血液学会専門医 12 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 414 名 (1 日平均) 入院患者 243 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、血液内科、消化器内科等の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
--	---

11. 医療法人北祐会 北祐会神経内科病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（こころの相談窓口）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が7名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会は未設置ですが今後検討します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を月1回定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。ただし当院では病理検査は北大に依頼しています。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・当院神経内科単科病院のため カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器および血液の分野で定期的な専門研修が可能な症例数は研修困難です。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 8 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 1 2 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	<p>森若文雄</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は神経内科単科の病院でパーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、慢性炎症性脱髄性多発神経症などの末梢神経疾患が診療の主体となっており、神経筋疾患の診察の基本となる神経学的診察法を多数の患者さんの診察で学ぶことができます。診察を通じて画像検査、神経伝導速度検査や筋電図などの電気生理学的検査の進め方、治療方針の立案・実施を学ぶとともに入院外来リハビリテーションの実際、医療相談員とともに自宅療養・施設入所における療養支援体制の構築を経験でき、医師、看護師のみならず院内外の医療機関・他職種との医療連携を図っておりますので、将来に必ず役立つ研修・経験ができます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本神経内科学会 指導医 7名
外来・入院患者数	外来患者1200名（1ヶ月平均） 入院患者延在院数2818名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	神経疾患全般 特に変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変成症）自己免疫性疾患〔多発硬症、慢性炎症性脱髄性根神経炎〕など。
経験できる技術・技能	<ol style="list-style-type: none"> 1) 神経伝導検査 筋電図 体性感覚誘発電位 2) ボトックス注射 3) 多職種による講義（医療福祉制度など）

経験できる地域医療・診療連携	往診医との神経難病緩和ケアに関する連携
学会認定施設 (内科系)	日本神経内科学会 教育関連施設

12. 社会医療法人孝仁会 北海道大野記念病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な電子書籍とインターネット環境があります。 ・更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・病院で運営している院内保育所があり，24 時間保育が利用できます。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・下記指導医，専門医が在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務づけ，そのための時間的余裕を与えます。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，循環器分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	<p>山下 武廣</p> <p>[内科専攻医へのメッセージ]</p> <p>豊富な症例数を背景としたハイレベルな臨床診療を目標にするのと同時に，学術活動による情報発信も重要視しています。臨床においては，内科・外科いずれかに偏ることなく，全ての選択肢から当該患者に最適の治療法を提供することが当院の最大ミッションであり実践しています。教科書や論文で学んだ内容を自ら実践できる環境は望んでもなかなか得られがたく，そのような環境で研修を行うことは長いキャリアを始める上できわめて重要な根本的素養を醸成します。偏重のない，広く客観的な視野を持って診療を行える内科医を育成したいと考えています。一方で，多くの症例を経験すると，得られた知見を世に還元したいと自然に考えるようになりますが，その能力もまたトレーニングにより養われます。当院循環器内科医はキャリアに応じて，研究会や地方会での発表，全国学会や国際学会等での発表，さらにそれらでの招聘講演の講師等を担っていますので，学術活動におけるキャリアモデルにも困らないでしょう。当院はコメディカルモチベーションが高いことでも知られています。高い志を有し，同僚あるいは他職種との協調性を持って研修を行いたい方には絶好の施設であると自負しています。興味があればいつでもご連絡下さい。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本心血管インターベンション治療学会専門医認定医制度の指導医 1 名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 4 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 10 名</p> <p>日本内科学会認定内科医 12 名</p> <p>経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会指導医 1 名</p> <p>日本不整脈心電学会不整脈専門医 2 名</p>

外来・入院患者数	外来患者 400 名（1 日平均）入院患者 220 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある循環器領域.
経験できる技術・技能	心臓移植を除く，ほぼすべての循環器診療技術・技能を経験できます.
経験できる地域医療・診療連携	病診連携・病病連携を通じた地域医療を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定 循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）研修施設 日本不整脈心電学会認定 不整脈専門医研修施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 不整脈専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設

13. 医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院

<p>認定基準</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<p>－厚生労働省認定基幹型幹型研修指定病院です。【認定番号：030011】</p> <p>－研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</p> <p>－札幌徳洲会病院の常勤医師として勤務環境が保障されています。</p> <p>－メンタルストレスに適切に対処する部署として、ハラスメント委員会が札幌徳洲会病院に整備されています。</p> <p>－女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</p> <p>－敷地内に院内保育所【つぼみ保育園】があり、24時間利用可能です。</p>
<p>認定基準</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>－指導医は6名在籍しています（下記）。</p> <p>－内科専攻医研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</p> <p>－医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2019年度実績50回）</p> <p>－研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>－CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2019年度実績6回…共催を含む）</p> <p>－地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2019年度実績10回）</p>
<p>認定基準</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>－カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも10分野以上）で定常的に専門研修可能な症例数を診療しています。</p> <p>－70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも56以上の疾患群）について研修できます。</p> <p>－専門研修に必要な剖検を行っています。</p> <p>（2019年度実績12体、2018年度15体）</p>
<p>認定基準</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>－臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。</p> <p>－日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。（2019年度実績3演題）</p>
<p>指導責任者</p>	<p>中川 麗（副院長）</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>徳洲会グループの病院としては、昭和58年5月に開設された全国で10番目、北海道では最初の病院です。当院をハブ空港として、様々な病院に研修で出ることができます。本州や海外の病院への見学・研修機会もあります。自分の担う診療が北海道、日本、そして地球の上でどんな意味を持つのか。それを感じ、たくさんのお会いに恵まれてください。また、患者さんの診療は入院から退院までを継続的に担当できるようにしています。時に、患者さんと一緒に年を重ね、年単位で自分の判断や決断を省察し、話し合い、グローバルスタンダードと経験の間でバランス感覚を養ってゆく・・・そんな仲間を募集中です！</p>

14. 医療法人菊郷会 愛育病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 10 名在籍しています ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2016 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています（2016 年度実績 3 回）。 ・倫理委員会を設置し、随時開催しています。 ・専攻医が国内の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	<p>盛 暁生</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院では消化器および血液疾患の専門病院であり、連携施設として消化器、血液疾患の診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。消化器に関しては急性期の対応から、慢性期疾患の診断、治療まで対応できます。血液疾患に関しては、白血病、リンパ腫などの造血器悪性疾患から、良性疾患などに関して全国有数の症例数を有しており、それぞれの疾患の専門家が指導できます。また専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本消化器病学会専門医 6 名、日本肝臓学会専門医 2 名</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、同学会指導医 1 名</p> <p>日本大腸肛門病学会専門医 1 名、同学会指導医 1 名</p> <p>日本血液学会認定専門医 6 名、同学会指導医 4 名、ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 2,423 名（1 ヶ月平均延べ） 入院患者 120 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、38 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に消化器および血液領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本大腸肛門病学会専門修練施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本血液学会研修施設
-----------------	--

15. 江別市立病院

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・労務環境は基幹施設の基準に従い保障されています ・メンタルヘルス、ハラスメントについては適切に対処する部署（江別市役所総務部職員課，保健室，メンタルアシスト北海道）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は3名在籍しています。 ・内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し，専攻医に受講をさせ，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講をさせ，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催し，専攻医に受講をさせ，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（江別市立病院・医師会病病・病診連携講演会；毎年1回実施，教育カンファレンス，地域参加型健康セミナー年数回実施）を開催し，専攻医に発表や受講をさせ，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>青木 健志</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>江別市立病院は，江別市とその近隣市町村を含め約16万人の診療圏の中にある地域の中核病院です。平成20年に公立病院でも先駆けとなる総合内科を設立して以来，総合内科を病院機能の中核として，地域住民がより安心して受診できる医療体制を確立するとともに，地域医療や総合診療を目指す若い医師が集まるマグネットホスピタルを目指し，総合内科を中心とした教育・研修システムを築いてきました。</p> <p>江別市立病院内科専門研修プログラムは総合内科を中心として構成しており，病歴聴取，身体診察を診療の中心にすえ，それを極め，適切な臨床推論により患者マネージメントを行います。将来，総合内科指導医などを目指す医師だけでなく，内科の各サブスペシャリティを目指す医師にとっても，ハイレベルな内科臨床力をつけることができます。専門家として向上していくためには，内科としての裾野の広さが必要です。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3 名, 日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名, 日本腎臓学会腎臓専門医・指導医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,405 名 (新患 1 ヶ月平均) 入院患者 483 名 (入院 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 など

16. 医療法人溪和会 江別病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事担当職員）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理1回，医療安全12回(感染対策含む)感染対策委員会については，2016年度新規に立ち上げ）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績地元医師会合同勉強会1回，多地点合同メディカル・カンファレンス 12回）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝及び呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し，定期的に参加しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	<p>品田 恵佐</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は200床を有する急性期病院です。プライマリケアから高度医療まで幅広い疾患を対象に治療を行っています。</p> <p>北大病院からの専門医の応援を得ており，最新の専門的治療を研修することが可能です。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医2名，日本消化器病学会消化器専門医3名，日本循環器学会循環器専門医4名，日本呼吸器学会呼吸器専門医1名，日本消化器内視鏡学会専門医2名，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医1名ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,882名（1ヶ月平均） 入院患者 4,136名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群のうち消化器，循環器，呼吸器領域の症例を経験できます。
経験できる技術・技能	極めて稀な疾患を除いて，技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	病診連携・病病連携を通じて地域医療を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

17. 市立千歳市民病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹型臨床研修病院として指定を受けています。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・千歳市常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務部職員課）があります。 ・ハラスメント委員会が千歳市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー一室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 5 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2019 年度実績 医療倫理 1 回，医療安全 3 回，感染対策 2 回し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的配慮を行います。 ・研修施設群合同カンファレンス（2020 年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的配慮を行います。 ・CPC を定期的で開催（2019 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的配慮を行います。 ・感染症専門医によるレクチャーを定期的で開催（2019 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的配慮を行います。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>循環器科 診療科長 池田大輔</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立千歳市民病院は，千歳や恵庭，安平，由仁などを含む地域の基幹病院として，急性期医療や小児・周産期医療，救急医療等の役割を担っています。北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名，日本内科学会総合内科専門医 5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 1 名，
外来・入院患者数	外来患者 12,911 名（1 ヶ月平均） 入院患者 4,260 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，61 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 など

18. 函館中央病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・函館中央病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、女性専用当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、24時間利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が4名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2019年度実績 医療安全2回（各複数回開催）、感染対策2回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2019年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2019年度実績 病診、病病連携カンファレンス4回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2019年度実績1演題）を予定しています。
指導責任者	紺野潤 【内科専攻医へのメッセージ】 函館中央病院は道南函館市の中央にあり、急性期一般病棟527床（うちICU8床）を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。※北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医3名、日本内科学会総合内科専門医4名、 日本内科学会認定内科医10名、日本消化器病学会消化器専門医3名、 日本消化器内視鏡学会指導医1名、認定専門医3名、 日本がん治療認定医機構がん治療認定医1名、日本肝臓学会肝臓専門医1名 日本糖尿病学会糖尿病専門医1名、日本救急医学会救急科専門医1名 日本循環器学会循環器専門医2名、日本超音波医学会指導医1名 日本心血管インターベンション治療学会指導医1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者18,962名（1ヶ月平均）（うち内科2,907名） 入院患者372名（1日平均）（うち内科67名）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本血液学会認定医研修施設

19. 市立函館病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・函館市常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスについては、年に1度ストレスチェックテストを行い結果をフィードバックするほか、悩みを抱える方には管理部庶務課にて相談窓口の紹介や産業医との面談を設定します。 ・各ハラスメント行為についての相談窓口を管理部庶務課に設置しているほか、H28年度からは女性専用の相談窓口を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が11名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2019年度実績 医療安全1回（各複数回開催）、感染対策3回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2019年度実績9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2019年度実績 地域がん診療拠点病院講演・講習会3回、月例医学研究会6回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、血液および神経の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、呼吸器については、当院内科専門研修委員会での調整により、研修を行える可能性があります。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2019年度実績5演題）を予定しています。
指導責任者	山本 義也 【内科専攻医へのメッセージ】 市立函館病院は道南地域の中心的な急性期病院であり、北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4名、日本内科学会総合内科専門医 8名 日本消化器病学会消化器専門医 6名、日本循環器学会循環器専門医 3名、 日本血液学会血液専門医 3名、日本神経学会専門医 1名、 日本肝臓学会専門医 3名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 15,707名（1ヶ月平均） 入院患者 1,014名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会教育関連施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 など

20. 社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・小樽協会病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する担当者がおります。法人本部に相談窓口があります。 ・ハラスメントの窓口対応者がおります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー一室、当直室が整備されています。 ・敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 5 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回（複数回開催）、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 3 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2015 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 連携シンポジウム 2 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。2016 年度病診、病病連携カンファレンス開催予定
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 4 演題）を予定しています。
指導責任者	竹藪公洋 【内科専攻医へのメッセージ】 北海道社会事業協会小樽病院は開設 90 年以上の歴史ある病院です。場所は札幌の隣にあり後志地区に属しています。急性期一般病棟 180 床、地域包括ケア病棟 60 床（2016 年 6 月開設予定）合計 240 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本消化器病学会消化器専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 300 名（1 日平均） 入院患者 160 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 8 領域、40 疾

	<p>患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・ 技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医 療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、高齢社会に対応した地域包括ケア病棟も6月より稼働する予定で医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医指導制度関連施設 日本大腸肛門病学会認定関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本病理学会研修登録施設 日本臨床細胞学会教育研修認定施設 など</p>

21. 旭川赤十字病院

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 旭川赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が旭川赤十字病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は17名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績24回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2015年度実績10回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（地域の医療機関と連携して診療を行った症例の検討会：2015年度実績2回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ・ 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記） ・ 専門研修に必要な剖検（2014年度実績6体，2013年度4体）を行っています。
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室，自習室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し，定期的に開催（2015年度実績4回）しています。 ・ 治験審査委員会を設置し，定期的に開催（2015年度実績6回）しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績3演題：地方会）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>吉田 一人</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>旭川赤十字病院は，北海道上川中部医療圏の中心的な急性期病院であり，上川中部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医7名, 日本内科学会総合内科専門医8名 日本消化器病学会消化器専門医4名, 日本循環器学会循環器専門医7名, 日本糖尿病学会専門医2名, 日本腎臓病学会専門医2名, 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医1名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医1名, 日本透析医学会透析専門医1名, 日本血液学会血液専門医0名, 日本神経学会神経内科専門医3名, 日本アレルギー学会専門医(内科)0名, 日本リウマチ学会専門医0名, 日本感染症学会専門医1名, 日本救急医学会救急科専門医3名, ほか
外来・入院患者数	外来患者948.7名(1ヶ月平均) 入院患者431.5名(1ヶ月平均) 2014年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域, 70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

22. 市立旭川病院

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・旭川市の会計年度任用職員（専攻医）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員相談室）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は12名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2018年度実績21回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2018年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（腸を診る会，旭川消化器病談話会，大雪消化器病研究会，血液症例検討会，コメディカル血液勉強会ほかを定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修課が対応します。 ・特別連携施設の専門研修では，市立旭川病院の指導医がその施設での研修指導を行います。
<p>認定基準 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち10分野（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，呼吸器，血液，アレルギー，感染症，救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうち腎臓，神経，膠原病を除く52疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2018年度実績9体，2019年度実績14体）を行っています。
<p>認定基準 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，非定期に開催（2018年度実績3回，2019年度実績4回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2018年度実績9回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2017年度実績6演題）をしています。

指導責任者	<p>・斉藤 裕輔</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立旭川病院は北海道道北圏の医療の中核を担う自治体病院であります。脳外科以外のほとんどの科を有する総合病院あり、とくに心血管系疾患、消化器系疾患に関する症例が多く、放射線インターベンション療法、血液透析、造血細胞移植、外来化学療法のほか、各専門科において先進的な医療を行っております。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育成します。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医12名，日本内科学会総合内科専門医8名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医7名，日本循環器学会循環器専門医4名，</p> <p>日本糖尿病学会専門医2名，日本呼吸器学会呼吸器専門医2名，</p> <p>日本血液学会血液専門医2名，日本アレルギー学会専門医2名，</p> <p>日本肝臓学会肝臓専門医1名，日本神経学会専門医1名，</p> <p>日本認知症学会専門医1名</p>
外来・入院 患者数	外来患者 19,778名(1ヶ月平均) 入院患者 10,129名(1ヶ月平均) 2018実績
経験できる 疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる 技術・技能	技能・技術評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診病影病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院，日本消化器病学会教育関連施設，</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設，日本呼吸器学会認定施設，</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設，日本アレルギー学会認定教育施設，</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設，日本がん治療認定医機構認定研修施設，</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設，日本糖尿病学会認定教育施設，</p> <p>日本動脈硬化学会専門医制度教育病院，日本認知症学会教育施設，</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設など</p>

23. 王子総合病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルスの無料相談の窓口があります。 ・ハラスメントに適切に対応する部署（管理課）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・病院敷地内に託児所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・総合内科専門医が6名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、院内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・がんセンターボード等の地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，呼吸器，消化器，血液腫瘍，循環器，神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	河井 康孝 【内科専攻医へのメッセージ】 王子総合病院は苫小牧市中心部に位置し，東胆振・日高圏内の人口約 30 万人の地域基幹病院として，1 次から 3 次医療の役割を果たしています。北海道大学病院を基幹病院とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 6 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,021 名（1 ヶ月平均），入院患者数 5,346 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none">• 日本内科学会認定教育関連施設• 日本消化器病学会認定教育関連施設• 日本循環器学会専門医研修施設• 日本腎臓学会研修認定施設• 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
-----------------	---

24. 苫小牧市立病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・苫小牧市職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス及びハラスメントに適切に対処する部署があります。 ・女性医師が安心して勤務できるような、更衣室、シャワー室、当直室（休憩可）が整備されています。 ・敷地外に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が7名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を年1回以上開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC 開催（2015年度実績1回）の際には、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓・呼吸器およびアレルギー・膠原病の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・剖検（2015年度実績3体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 ・医療倫理委員会を設置しています。 ・治験審査委員会を設置しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	<p>浄土 智</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は東胆振および日高地方の中心的な急性期病院です。とした内科系診療科として、内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・神経内科を標榜しています。神経内科（H28年度時点常勤医不在のため）以外の診療科で研修が可能となっており、幅広い研修を行うことが可能です。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医7名、日本内科学会総合内科専門医2名、 日本消化器病学会認定消化器専門医2名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門3名、日本肝臓学会肝臓専門医1名、日本心血管インターベンション治療学会専門医1名、 日本循環器学会循環器専門医2名、日本リウマチ学会リウマチ専門医1名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医1名</p>
外来・入院患者数	外来患者 17,262名（1ヶ月平均） 入院患者 7,876名（1ヶ月平均）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	<p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本呼吸器学会関連施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本胆道学会認定指導施設</p> <p>日本病理学会研修登録施設</p> <p>日本臨床細胞学会施設認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設</p> <p>日本麻酔科学会麻酔指導病院</p>

25. 総合病院伊達赤十字病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・伊達赤十字病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が伊達赤十字病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014年度実績 医療倫理 1回（複数回開催），医療安全2回（各複数回開催），感染対策3回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015年度実績1回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014年度実績 病診，病病連携カンファレンス3回）を定期的開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	松岡 健 【内科専攻医へのメッセージ】 伊達赤十字病院は北海道の伊達市中心部にあり，一般病棟270床，療養病棟44床，精神科病棟60床の合計374床を有し，地域の医療・保健・福祉を担っています。北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医1名，日本内科学会総合内科専門医1名 日本消化器病学会消化器専門医3名，日本循環器学会循環器専門医2名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者11,213名（1ヶ月平均） 入院患者259名（1日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会循環器専門医制度研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設
-----------------	--

26. 総合病院釧路赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修基幹病院です。 ・図書室にインターネット環境が整備されています。 ・常勤医師としての労務環境が保障されます。 ・日本赤十字社の規定に基づくコンプライアンスが確立されています。 ・メンタルヘルスやハラスメントに対応する相談員が配備されています。 ・病院近傍に専用の託児所があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう医局に女性職員を配置しているほか、更衣室等も整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が4名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の講演会や研修会を随時開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに参画し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また、基幹病院で行われる CPC への参加も配慮します。 ・地域参加型のカンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、膠原病及び類縁疾患、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・治験管理室を設置し定期的を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	<p>古川 真【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、北海道釧路根室地区の基幹病院として、地域の医療機関との密接な関係の構築を図りながら、急性期病院としてその役割を担っています。当院の内科は、診療科を細分化せず地域の患者をすべて受け入れるため、あらゆる分野の内科疾患を診察できる体制になっています。救急医療は当直やオンコール業務で修得し、指導医による客観的な指導を受け、適切な診療が出来る体制にあります。また、上級医として初期臨床研修医を直接的に指導する機会も与えられます。当院は、全ての内科疾患を診察できる能力を身につけること、内科専門医の資格を取ること、更に内科専門医取得後、サブスペシャリティリティへ進むことを目的とする専攻医の皆さんを応援します！</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 4名、日本内科学会総合内科専門医 2名 日本糖尿病学会専門医 3名、日本リウマチ学会専門医 2名、 日本腎臓学会腎臓専門医 2名、日本透析医学会専門医 1名、 日本内分泌学会専門医 1名</p>

外来・入院患者数	外来患者 6,600 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 203 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある循環器, 血液, 神経以外の領域を経験できます. 2) 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について, 幅広く経験することが可能です.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	当院は, 地域包括ケア病棟を有すること, 院内に居宅介護事業所や訪問看護ステーションを有することから, 急性期医療だけでなく, 緩和ケア治療, 終末期の在宅診療など超高齢化社会に対応できる体制を整えているため, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度 教育関連病院 日本リウマチ学会 教育施設 日本糖尿病学会 教育関連施設 日本腎臓学会 研修施設 日本消化器病学会専門医制度 認定施設 日本精神神経学会精神科専門医 研修施設 日本病理学会専門医制度 研修登録施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設, 実地修練施設

27. 独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院

<p>認定基準</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・独立行政法人労働者健康安全機構釧路労災病院医師として労務環境が保障されています。 ・学会参加費や発表に係る出張費等医学研究の向上に用いることが出来る研究費を医師経験年数に応じて支給します。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。また、医局内に個別に仕切られたブースを提供致します。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全や感染対策等の研修会を定期定期に開催しており、医療安全や感染対策については、出席を義務付けております。 ・がんセンターボードを定期的に開催しております。また、CPC についても定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、腎臓、血液、神経疾患および感染の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>宮城島 拓人</p> <p>取得資格：日本内科学会 総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会 専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医 日本がん治療認定医機構 認定医・暫定指導医 日本血液学会認定 血液専門医・指導医 日本医師会認定産業医 日本肝臓学会専門医 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 日本エイズ学会認定医 I C D (インфекションコントロールドクター)</p>
<p>指導医数 (常勤)</p>	<p>日本内科学会認定総合内科専門医 3 名，日本内科学会認定内科医 7 名，日本消化器病学会指導医 1 名，日本消化器病学会専門医 5 名，日本消化器内視鏡学会指導医 1 名，日本消化器内視鏡学会専門医 2 名，日本がん治療認定医機構暫定教育医 1 名，日本エイズ学会指導医 1 名，日本血液学会血液専門医 2 名，日本神経学会専門医 1 名，</p>

	日本肝臓学会認定肝臓専門医 2 名，日本臨床腫瘍学会暫定指導医 2 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名等
外来・入院患者数	外来患者 1000.0 名（1 ヶ月平均）入院患者（在院）344.1 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域について，多くの症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応したがん患者の診断，治療，緩和ケア，終末期医療などを通じて，地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 など

28. 市立釧路総合病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が2名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（年間で医療安全2回、感染対策2回程度）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（釧路市内科談話会例会 年4回程度）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、呼吸器および膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、随時開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	<p>坂井英世</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>北海道東部唯一の3次救命救急センターを有する施設であり、虚血性心疾患・心不全・不整脈疾患をはじめとする豊富な症例を経験出来る他、最重症例の診療に多く携わることが出来ます。また、手術件数の豊富な心臓血管外科があることから、経皮的動脈弁置換術と心臓移植領域を除く冠動脈カテーテル治療や植込デバイス治療の経験を多く学べます。内科と外科の意見交換が活発に行われており、バランスのとれた診療スタイルを身につけることも特徴です。</p>
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 2名、日本内科学会総合内科専門医 1名
外来・入院患者数	外来患者 26,575名(1ヶ月平均) 入院患者 14,963名(1ヶ月平均) (2018年度)
経験できる疾患群	研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療など地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修病院 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本リウマチ学会教育施設

29. J A北海道厚生連 帯広厚生病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な 24 時間利用できる図書館とインターネット環境があります。 ・診療医としての労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処できる産業医・産業保健師が常勤しています。 ・ハラスメント相談窓口が帯広厚生病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できる更衣室，当直室等が整備されています。 ・帯広厚生病院の保育所が利用できます。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 16 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績医療倫理 1 回，医療安全 7 回，感染対策 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）へ定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2015 年度実績 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2017 年度予定）へ定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域全 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	<p>研修委員長 秋川 和聖</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>帯広厚生病院は豊富な症例を有し，幅広い臨床経験を持つ指導医による適切な指導を受けられます。当施設での研修は，地域の実情に合わせた医療を実践できる内科医を育成するものです。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 30 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名</p> <p>日本消化器病学会専門医 15 名，日本肝臓学会専門医 3 名，</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 1 名，</p> <p>日本糖尿病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会専門医 3 名，日本血液学会専門医 2 名，</p> <p>日本神経学会専門医 2 名，日本アレルギー学会専門 1 名，</p> <p>日本リウマチ学会専門医 2 名</p>
外来・入院患者数	外来患者 8330 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1073 名（1 ヶ月平均延数）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本アレルギー学会認定施設 日本がん治療認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本甲状腺学会認定施設 日本循環器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本神経学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定施設 日本内分泌学会認定施設 日本脳卒中学会認定施設 日本リウマチ学会認定施設 など

30. 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンス室が国立研究開発法人に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が5名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2014年度実績 医療倫理2回，医療安全2回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設でCPCを定期的で開催（2014年度実績1回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝，呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014年度実績2体）を行っています。
<p>認定基準 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績1演題）をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し，定期的で開催（2014年度実績3回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2014年度実績1回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>山並秀章</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>消化器分野では専門性の高い最先端の医療を目指しています。平成21年に消化器内視鏡センターを開設し，消化器内視鏡の検査件数は平成26年7000件を超えています。早期大腸癌に対するESD（内視鏡による広範囲癌切除）などの内視鏡治療症例数はこの地域随一となっています。また平成24年5月に在宅ケアセンターを新設して，訪問診療，訪問看護，訪問リハビリによるチームで在宅ケアの24時間対応さらに看取りにも対応しています。急性期から慢性期さらに在宅医療まで安心できる橋渡しを実現していきます。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会内科医指導医 2 名・総合内科専門医 1 名・総合内科専門医指導医 2 名 日本消化器病学会認定消化器病専門医 2 名・専門医指導医 2 名, 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名, 専門医指導医 1 名日本肝臓学会認定肝臓専門医 1 名・専門医指導医 1 名, 日本消化管学会胃腸専門医・指導医 1 名, 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医 2 名, 日本東洋医学会漢方専門医 1 名, 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 233.63 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 180.18 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群のうち, 緩和ケア治療, 終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き, 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について, がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 消化器内科分野においては超音波内視鏡 (radial 及び convex) の観察, EUS-FNA, ERCP, ERCP 関連手技, 大腸 EMR, TACE, RFA, EIS, EVL を一人で施行できる。胃・大腸 ESD を経験できます。 2) CT, MRI, 血管造影の読影法などを習得し腹部エコー, 消化管造影などを学ぶ。 3) 外来診療のほか往診を含めた在宅医療並びに慢性疾患の長期管理に対応し病状や理学所見から適切な検査を選択し診断・治療を行う能力を養う。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療, 終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本麻酔科学会認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 総合診療医養成研修センター 肝疾患に関する専門医療機関指定施設

31. 社会福祉法人 北海道社会事業協会帯広病院

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに対処する部署（医療安全室）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が3名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（各年2回以上）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設でCPCを定期的で開催（2014年度実績6回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加予定。カンファレンスには専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，アレルギー，感染症，救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2019年度実績3体）を行っています。 ・2016年度から常勤の病理医2名が勤務しております。 ・院内で細菌培養検査を行っています。
<p>認定基準 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績1演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に参加しています。 ・治験審査委員会を設置し，定期的に参加しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
<p>指導責任者</p>	<p>吉田 一郎</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】35万人が住む十勝地方は農業が盛んで食料自給率は1100%と日本一です。中核都市帯広市は人口17万人で屋台村や豚丼が有名です。帯広協会病院は昭和12年開業と歴史ある病院で300床の急性期ベッドを持つ二次救急担当病院です。常勤内科は循環器内科，消化器内科で，透析施設と総合診療科も併せ持っています。総合診療科の研修病院でもあり内科全般はもちろん，循環器・消化器・腎臓・代謝等のサブスペシャリティ領域を含めた幅広い患者さんの診療経験を積むことができます。医師間のコミュニケーションがとりやすい規模の病院であり，充実した教育が可能です。夏はすごく暑く，冬はかなり寒いのですが晴天が多く雪は少なく住みやすい地域です。食事がおいしいので食べ過ぎて太らないように気をつけ</p>

	て内科専門医を目指してください。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3 名, 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名, 日本循環器学会循環器専門医 2 名, 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名, 日本透析医学会透析専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 15,969 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 6,916 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群のうち, 循環器・消化器領域はほぼすべての疾患について経験できます。総合内科 III (腫瘍) については, 消化器癌を通して経験することができます。紹介あるいは救急患者さんを通しておよそ 70 疾患群のうち 7 割以上の疾患群を経験できます。また付随する心臓リハビリテーション, 人工透析治療についても経験できます。
経験できる技術・技能	1) 地域の中核病院 (地域センター病院) として急性期, 慢性期含めた広い範囲の上下部内視鏡検査や心臓カテーテル検査等の技術を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は地域センター病院であり, 当院での診療がすなわち地域医療の実践となります。在宅ができない慢性期の患者さんは慢性期病院転院や施設入所を通して診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設

32. 北見赤十字病院

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本赤十字社正職員医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課・医療福祉課）があります。 ・ハラスメント委員会が北見赤十字病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，24 時間利用可能です。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 9 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（プログラム統括責任者（院長補佐監），プログラム管理者（第一内科・総合診療科部長）（ともに総合内科専門医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015 年度実績 22 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行う（2018 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う（2015 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科系 3 診療科オープンカンファレンス，北見心電図・A B I カンファレンス，北見臨床研究会等；2015 年度実績 21 回）を定期的に行うし，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2017 年度当院開催予定）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に対応します。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 3 体，2015 年度 9 体）を行っています。
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年実績 6 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>第一内科・総合診療科部長 永嶋 貴博</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は，北海道三次医療圏であるオホーツク圏の地方センター病院です。急性期病院であり，かつ，がん診療連携拠点病院です。当院自体も基</p>

	<p>幹施設として専門医研修プログラムを整備しています。社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成を目指しています。医療資源の乏しい地域基幹病院として、真の初診（患者が初めて医療機関に受診する「初診」及び診断・治療がなされていない診療連携のファーストステップとしての紹介「初診」）から入院・退院まで関わるので、疾患の初期診断から治療開始・治療転帰まで一貫した診療を経験できます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 9 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 2 名， 日本肝臓学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 1 名， 日本高血圧学会高血圧指導医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名， 日本インターベンション治療学会専門医 2 名，日本核医学専門医 1 名</p>
非常勤医師	<p>日本糖尿病学会指導医・日本内分泌学会指導医 1 名（毎週），日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名・日本神経学会専門医 1 名（月 2 回）</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 2,331 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1,003 名（1 ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，66 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく，がん診療においては早期診断・治療から緩和・終末期医療，在宅医療の連携まで経験できます。超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携が経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設</p>

33. J A北海道厚生連 網走厚生病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があり、電話、メールによる相談のほか、専門スタッフによるカウンセリングを毎月開催しています。 ・コンプライアンス委員会が整備されており、院内・院外・外部に相談窓口を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー一室、当直室が整備されています。 ・病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 2 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2014 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2014 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績 医を語る会 12 回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 1 回）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）を予定しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に参加（2014 年度実績 2 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	<p>内田 多久實</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>網走厚生病院は、斜網地区（網走市・斜里町・清里町・小清水町・大空町）における地域センター病院として、約 7 万人の地域住民の健康を支えており、1 次から 2.5 次救急までをカバーしています。また、冠動脈カテーテル治療や抗がん剤治療のほか、内視鏡センターを設置するなど、プライマリケアから専門的治療まで幅広く研修を行うことができます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 4 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名</p> <p>日本消化器病学会専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名</p> <p>日本肝臓学会専門医 1 名、日本循環器学会専門医 2 名、ほか</p>

外来・入院患者数	外来患者 14,995 名（1 ヶ月平均） 入院患者 405 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本消化器病学会関連施設 日本肝臓学会認定関連施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 など

34. 北海道中央労災病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・当院の医師として労務環境が保障されています。常勤・非常勤等雇用形態についてご相談に応じます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ・ハラスメント相談員が院内に配置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が4名在籍しています。 ・教育・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策等の講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、および感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>酒井 寛人</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>北海道中央労災病院は南空知地域の中心的な基幹病院であり、北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 3名、日本内科学会総合内科専門医 4名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名、指導医 2名、</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 1名、ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 11,136名(1ヶ月平均延数) 入院患者 5,122名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域のうち、呼吸器及び循環器疾患群の症例を中心に経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本内科学会認定制度教育関連特殊施設</p> <p>日本消化器病学会関連施設</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p>

	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本老年医学会認定施設 など
--	---

35. 岩見沢市立総合病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 10 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全、感染対策講習会、医療倫理講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	<p>鈴木 章彦</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>南空知地区の基幹病院として、一般的な疾患・生活習慣病から稀な疾患まで幅広い症例を経験できます。また、当地区の唯一の二次救急医療機関として救急症例も多く経験ができるとともに、地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について統一的に診療できる幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、</p> <p>日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名</p>
外来・入院患者数	<p>外来 約 1,000 名（1 か月平均） 入院 約 350 名（1 か月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち内分泌・腎</p>

	<p>臓・神経・膠原病の一部の疾患以外の広範な領域について経験できます。また、人工腎臓について学びたい方は血液浄化センターで研修可能です。</p> <p>2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について幅広く経験することが可能です。</p>
経験できる技術・技能	<p>1) 地域の基幹病院として、幅広い内科診療を経験できます。</p> <p>2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	在宅訪問診療，在宅緩和ケア治療，終末期の在宅診療などに関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連施設</p> <p>日本循環器学会専門医制度研修施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本消化器病学会専門医制度関連施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本透析医学会認定施設</p> <p>日本精神神経学会専門医研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本臨床細胞学会認定施設</p> <p>など</p>

36. 栗山赤十字病院

1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・栗山赤十字病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が栗山赤十字病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，当直室（ユニットバス有）が整備されています。 ・病院近傍に院内保育所があり，利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が2名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2014年度実績 医療倫理 1回（複数回開催），医療安全 5回（各複数回開催），感染対策 3回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014年度実績 病診，病病連携カンファレンス 1回）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，内分泌，代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>天崎 吉晴</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>栗山赤十字病院は札幌から車で 60 分，新千歳空港から車で 50 分と北海道の南空知にある栗山町の基幹病院として，一般病棟 96 床（内障がい者病棟 40 床），療養病棟 40 床の合計 136 床を有し，地域の急性期から慢性期まで幅広い医療を担っており，北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。</p> <p>また，医療と介護の連携も積極的に行っており，2025 年の医療改革に向けて「地域包括ケアシステム」を学ぶ研修になると考えています。</p>
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 2 名，日本消化器病学会消化器専門医 1 名，日本消化管学会専門医 1 名，日本糖尿病学会会員 1 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,460 名（1 ヶ月平均） 入院患者 110 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携，介護との連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	なし

37. 独立行政法人労働者健康安全機構 北海道せき損センター

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当院は札幌から特急で35分と利便性が高く、基幹病院でのカンファレンスや札幌地区での勉強会などに参加しやすい環境にあります。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・当院の常勤または非常勤医師として勤務環境が保障されています（相談に応じます）。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメントに対しては相談窓口（総務課職員担当）を設けております。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室が整備されており、必要に応じて宿舎の用意が可能です。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全（年6回）・感染対策講習会（年2回）を定期的で開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。医療倫理講習会は、当院で定期的には開催していないため基幹施設での受講を義務義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCは当院での定期的開催は行っていません。基幹施設や日本内科学会が企画するCPCにそのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは岩見沢地区で定期的で開催されています。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、膠原病および類縁疾患の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究においては、医療クラークが常在しており臨床研究の手助けをしてくれます。 ・専攻医が日本内科学会講演会・同地方会その他国内外の学会で発表できるよう、時間的余裕を与えます。 ・倫理委員会を設置し、必要に応じて開催しています。 ・治験管理室を設置し、必要に応じて審査会を開催しています。
<p>指導責任者</p>	<p>竹田 剛</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、せき損センターとして道内のせき損患者医療の中心的存在となる医療機関です。整形外科が中心の病院ですが、せき損はもとより、複数の内科合併症を有する高齢者の骨折例などを多数経験する機会があり、総合内科としての研鑽を積むことができます。また、当院は美唄地区の地域医療を担っており、当地区で最期を迎えたいという癌患者様や札幌で高度な治療を受けている患者様の日常フォローも行っております。さらにはリウマチ・膠原</p>

	病センターを院内標榜しており、南空知地区のリウマチ・膠原病類縁疾患の患者様が多数集まってきます。リウマチ・膠原病の診療には整形外科の知識が必須ですが、関節リウマチの整形外科手術や診察を見学することもできます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1名, 日本内科学会総合内科専門医 2名 日本消化器病学会消化器専門医 1名, 日本循環器学会循環器専門医 2名,
外来・入院患者数	外来患者のべ 13,649 名 (2015 年 1 月～12 月) 入院患者 180 名 (2015 年 1 月～12 月)
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域, 70 疾患群のうち, 総合内科・膠原病および類縁疾患の症例を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医 療・診療連携	美唄地区は道内でも高齢化が進んでいる地域ですが, 当院はせき損センターという性格からリハビリテーションが充実しており, 在宅医療に向けて様々な取り組みを行っています。超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本リウマチ学会認定医制度教育施設

38. 市立稚内病院

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院および地域医療研修施設です。 ・研修に必要な図書室・文献検索システム・インターネット環境があります。 ・市立稚内病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（医療支援相談局）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・女性専攻医に対して、仕事と育児の両立支援対策として短時間勤務制度を導入しております。 ・敷地近隣に病院職員向けの保育所があり利用可能です。また、民間事業者と連携した 24 時間保育が可能です。
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 2 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 医療倫理 7 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績地元医師会講演会 8 回、他講演会 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合内科，消化器，血液の分野で専門研修が可能な症例数を有し，カリキュラムに示す内科領域 13 分野全般の症例を診療しています。
<p>認定基準 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 1 演題）を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会が設置されている他，治験審査委員会も併せて設置されています。
<p>指導責任者</p>	<p>國枝保幸</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立稚内病院の特徴は、南へ半径 90 km の周辺地域と利尻・礼文島を医療圏とする宗谷健で唯一の総合病院であり、京都府と同じくらいの土地に約 7 万人の人が住む地域の医療を 1 年 365 日 24 時間、1 次から 3 次救急まで年中無休で守っていることです。この地域性により救急や外来診療であらゆる疾患の初期像から終末期まで遭遇することになり、総合内科さらに総合診療の能力が自然に身に付いていきます。</p> <p>一般病床 258 床（39 床休床），精神神経科病床 80 床，感染症病床 4 床の合計（許可病床 342 床）（実稼働病床 303 床）を有し，地域の医療・保健・福祉を担っています。</p> <p>分院として医療型療養病床 45 床の市立稚内こまどり病院を市内に併設しており急性期のみならず慢性期まで幅広い内科研修が可能です。</p> <p>今後の高齢化の進展による地域包括ケアシステムの導入に伴い，急性期～慢性期～在宅医療まで幅広く対応が可能です。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 2 名, 日本消化器病学会消化器病専門医 2 名, 日本肝臓学会認定肝臓専門医 2 名, 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 1 名, 日本血液学会認定血液専門医 1 名, 日本血液学会認定血液指導医 1 名, 日本プライマリ・ケア認定指導医 1 名, 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名, 公益社団法人日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名, 日本消化管学会胃腸科専門医 1 名
外来・入院患者数	平成 30 年度実績 (延患者数) 外来延患者 187,258 名 入院延患者 68,453 名 外来延患者 15,605 名 (1 ヶ月平均) 入院延患者 5,704 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	市内の診療所, 主に道北勤医協 宗谷医院が力を入れる在宅医療において市立稚内こまどり病院は中間施設として, 当院は後方支援病院として診療連携を行っています.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会関連施設 日本肝臓学会認定関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本消化器病学会関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

39. 砂川市立病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・砂川市立病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員係）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内（南館）に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が8名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2019年度実績 医療倫理1回，医療安全2回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2019年度実績2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・がんセンターボードを週1回開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー膠原病，感染症及び救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	渡部直己 【内科専攻医へのメッセージ】 砂川市立病院は中空知の中心的な急性期病院であり，北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医8名，日本内科学会総合内科専門医4名 日本消化器病学会消化器専門医3名，日本循環器学会循環器専門医3名，日本肝臓学会専門医1名，日本呼吸器学会呼吸器専門医2名，日本血液学会血液専門医2名，日本神経学会神経内科専門医1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,055名（1日平均） 入院患者 398名（1日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

40. 滝川市立病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・滝川市職員として勤務環境が保障されています。 ・病院職員安全衛生委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は5名在籍しています。 ・内科後期研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2014年度実績 医療安全12回、感染対策30回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2015年度実績 開放病床症例検討会3回、リウマチ懇話会3回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を含むすべての分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2015年度実績4演題)をしています。
指導責任者	<p>松井和生(内科後期研修プログラム責任者)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>滝川市立病院は13の診療科、314床を有する自治体病院であり、プライマリケアから高度医療まで幅広い疾患を扱い、救急医療体制においては、一次・二次を中心とした地域の中核的役割を担っています。北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として、幅広い領域を扱い、科学的根拠と高い価値観に基づく医療を、チームで実践することができる内科専門医を育成することを目的としています。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 5名、日本内科学会総合内科専門医 2名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医1名、日本糖尿病学会専門医 2名</p> <p>日本リウマチ学会専門医2名、ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 5,790名(1ヶ月平均) 入院患者 3,922名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、患者の様々なライフ・ステージに対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携などを経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会 認定医制度教育関連病院</p> <p>日本循環器学会 循環器専門医研修施設</p> <p>日本糖尿病学会 認定教育施設</p> <p>日本リウマチ学会 認定教育施設 など</p>

41. 独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・独立行政法人国立病院機構期間医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部管理課）があります。 ・ハラスメント相談窓口が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が36名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的で開催（2017年度実績 医療倫理4回，医療安全12回，感染対策12回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2017年度実績2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，消化器，循環器，代謝，腎臓，呼吸器，血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間1演題以上の学会発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>黒澤 光俊</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は道内唯一の「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され，がん専門病院として札幌市はもとより道内全域をカバーしています。</p> <p>がん専門病院での，がんの診断，抗がん剤治療，緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療やがん診療に関連した地域医療・診療連携などについて幅広く経験ができます。</p> <p>血液内科では，白血病，悪性リンパ腫などの血液悪性腫瘍や種々の貧血，骨髄増殖性疾患，骨髄異形成症候群，血小板減少症，血液凝固異常症など各種血液疾患などを診察しています。</p> <p>入院患者さんでは，血液悪性腫瘍の患者さんが多数を占め，これらの患者さんに対し，化学療法を中心として造血幹細胞移植や放射線治療を組み込んだ治療を行っています。</p> <p>血液疾患は難しい病気で治りづらいという印象をもつ人が多いと思いますが，新薬や移植方法の改善により，治療の進歩が著しい分野になっています。</p> <p>血液内科以外でも，がん患者さんが抱える不安や依存症，生活習慣病など</p>

	<p>の診療もしていますので、他の内科疾患についても幅広く研修を行うことができます。</p> <p>専門的ながん診療を含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 1 名，日本内科学会総合内科専門医 4 名， 日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本循環器学会循環器専門医 1 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 3 名， 気管支鏡専門医 3 名，消化器内視鏡専門医 6 名，がん薬物療法専門医 1 名， 臨床腫瘍学会指導医 2 名ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 12,100 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 11,387 名 (1 ヶ月平均延数)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 6 領域，42 疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・ 技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら、幅広く経験することができます。</p> <p>がん専門病院における、がんの診断、抗がん剤治療、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療など、幅広いがん診療を経験できます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本消化器病学会認定医認定施設 日本血液学会認定医研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内科学会認定内科専門医教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本細胞学会認定施設 日本消化器集団検診学会認定指導施設 日本カプセル内視鏡学会認定指導施設 など</p>

42. 独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構期間職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，空きがあれば利用可能です。
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 21 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 医療倫理 2 回，医療安全 18 回（各複数回開催），感染対策 2 回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 地域医療連携症例報告会 4 回，消化器 common disease 3 回等）を定期的開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 1 3 分野のうち，循環器，呼吸器，消化器，神経，腎臓，膠原病，代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 11 演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>加藤雅彦</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>北海道医療センターは 7 つの内科系診療科をもち，連携施設として循環器，呼吸器，消化器，神経，腎臓，膠原病，代謝疾患の診断と治療の基礎から，より専門的医療を研修できます。各領域には専門医資格をもった指導医がおり指導にあたります。救命救急センターの診療を通じて救急分野の研修も可能です。また専門医療のみではなく，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。当院は 100 名を超える医師が在籍しています。他科の医師と幅広い交流をもつことができ，専攻医の皆様の人的ネットワーク作りにも役立ちます。</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 21 名，日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器学会消化器専門医 6 名，日本肝臓学会専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 8 名，日本腎臓学会専門医 2 名，日本糖尿病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本リウマチ学会専門医 2 名，</p>

	日本アレルギー学会専門医（内科）1名，日本老年医学会専門医1名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,028名（1ヶ月平均） 入院患者 201名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	血液，一部の内分泌疾患（下垂体疾患）を除いた領域の内科系疾患について幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器および呼吸器領域においては，より高度な専門技術も習得することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 など

43. 独立行政法人国立病院機構 函館病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・期間医師として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）がある。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能である。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 9 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 医療安全 6 回，感染対策 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2020 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績 1 回）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，循環器，呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会等あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績 15 演題）をしています。
指導責任者	<p>米澤 一也</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>函館病院は循環器，呼吸器，消化器疾患の専門病院であり，連携施設として循環器，呼吸器，消化器疾患の診断と治療の基礎から，より専門的医療を研修できます。循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から，慢性期の心不全の管理まで対応できます。呼吸器疾患に関しては，感染症，肺癌など腫瘍性疾患，間質性肺疾患，消化器疾患に関しては消化器内視鏡検査，治療やピロリ菌，炎症性腸疾患など幅広い疾患に関して全国有数の症例数を有しており，それぞれの疾患の専門家が指導できます。また専門医療のみではなく，主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。</p>
指導医数 （常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,156 名（1 ヶ月平均） 入院患者 6,871 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に

技能	基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医研修施設 日本血液学会研修施設 日本呼吸器学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定研修施設 日本消化器病学会認定医制度関連施設 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本消化器病学会認定医関連施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本大腸肛門学会大腸肛門病認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

44. さっぽろ神経内科病院

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要なインターネットの環境が整備されている ・公的な規定および法人の規定によって適切な労働環境が保証されている ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設（北大病院）と連携できる ・院内にハラスメント委員会は設置されていないが、就業規則をもとに厳格に監視・管理されており、実際の場合あるいはその可能性事案での相談窓口の設定など、ハラスメント対策に関し組織として適切に対応策を講じている ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室などが配慮されている ・施設内に保育施設はないが、近隣の保育所などの利用が可能な環境である
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2016.12時点で指導医が3名在籍している ・研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる ・医療安全、感染症対策講習会を定期的開催しており、専攻医にはそれら講習会への参加を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 医療倫理に関し、CITI Japan eラーニングの受講を義務付ける。 ・専攻医には基幹施設で行われる医療倫理、医療安全、感染症対策講習会の受講を積極的に勧め、そのための時間的余裕を与える ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える ・基幹施設で行うCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与える ・地域参加型のカンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える
<p>認定基準 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神経内科領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している
<p>認定基準 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本神経学会学術集会あるいは地方会で定期的に学会発表している。日本内科学会講演会および同地方会で学会発表することを推奨し、適切に指導している
<p>指導責任者</p>	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>さっぽろ神経内科病院では、診療/診断機器の充実、人員配置などから、専門性の高い神経内科診療を担い、幅広い神経疾患を経験研修することが可能です。また、神経内科領域で非常に重要なリハビリテーションも施設/人員ともに充実しており十分な研修が可能です。さっぽろ神経内科病院と同じ医療法人が運営するさっぽろ神経内科クリニック（有床診療所）が隣接しており、細かな診療連携が可能です。有床診療所の特徴を活かした訪問診療を含めた在宅支援を研修できます。各スタッフ間の連携の中で、チーム医療の重要性と医師の役割についての理解が深まる研修になると思います。また、神経内科医の常勤不在地域の基幹病院への医師派遣やIT機器を用いた遠隔診療などを積極的に実践しているため、神経内科医療の社会的側面の研修にも有用</p>

	<p>な経験になると思います。</p> <p>さっぽろ神経内科病院を運営する医療法人セレスは、病院の他に、上記のさっぽろ神経内科クリニック、訪問看護ステーションゆう、療養通所介護施設ゆう を運営しており、神経疾患患者の診断から長期フォローまで、専門医療を背景として「患者・家族に添い続ける」ことを法人の理念としています。</p>
指導医数 (常勤医)	日本神経学会 指導医 3名
外来・入院患者数	外来患者 延べ約 1,500名(1ヶ月平均) 入院患者延在院数 約 1,700名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	神経疾患全般 特に変性疾患(パーキンソン病, 脊髄小脳変成症) 自己免疫性疾患〔多発硬症, 慢性炎症性脱髄性根神経炎〕など。
経験できる技術・ 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・神経学的検査(診察) ・画像診断(レントゲン, MRI, CT, 超音波) ・生理学的検査(筋電図, 神経伝導検査, 心電図, 重心動揺検査) ・検体検査(腰椎穿刺による髄液検査)
経験できる地域医 療・診療連携	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する同一法人のさっぽろ神経内科クリニック(有床診療所)も含めて、訪問診療, 往診, 慢性進行期の患者(特に神経難病)の在宅・長期療養を研修できる ・隣接する同一法人の訪問看護ステーション, 療養通所介護施設にて在宅患者の現状を研修できる ・3名(2016.12現在)の医療ソーシャルワーカーが常勤する地域連携課と協同して地域との医療連携, 医療制度・福祉制度, などを研修できる ・近隣には救急指定病院, 総合病院, 脳神経外科, 整形外科などが複数存在し, 良好な連携体制を維持している
学会認定施設 (内科系)	・日本神経学会准教育施設

45. 社会医療法人医仁会 中村記念病院

<p>認定基準</p> <p>1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度協力型臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・中村記念病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント防止規定があり適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー一室，当直室が整備されています。 ・病院近隣に民間保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が1名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2018年度実績 医療倫理2回，医療安全2回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2018年度実績 病診，病病連携勉強会4回，多地点合同メディカル・カンファレンス4回）を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，神経，循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会や，同地方会あるいは日本神経学会や，同地方会，その他各学会にて年間で計4演題以上の学会発表（2018年度実績4演題）を予定しています。</p> <p>倫理委員会を設置し，定期的で開催（2018年度実績12回）しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治験管理室を設置し，定期的を受託研究審査会を開催（2017年度実績12回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります
<p>指導責任者</p>	<p>佐光一也</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>中村記念病院は1967年に日本初の脳神経外科専門病院として開設され，現在499床を持つ脳神経疾患総合病院である。開院以来24時間救急診療体制を取り，札幌市の一次・二次救急指定病院として脳神経疾患を中心に救急患者を受け入れている。当院の神経内科の特徴として，脳血管障害や神経外傷，髄膜炎・脳炎，意識障害，てんかん発作，ギラン・バレー症候群など緊急性の高い急性期疾患が比較的多いことがある。また，市中病院であるため頭痛やめまい疾患，認知症，末梢神経疾患，パーキンソン病を含む神経変性疾患など common neurological disease の比率が高くなっており，特に頭痛，てんかん，パーキンソン病，ボツリヌス毒素治療は専門外来も行っている。さらに，脳神経外科医と連携し，パーキンソン病やてんかん等に対する機能神経外科的治療を実施している。当院は北海道大学病院を基幹施設とする内</p>

	科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。これら施設での研修を含めて内科専門医を取得し、病棟・外来・救急業務研修を通じて、多彩な神経内科疾患を経験し、神経内科専門医の育成を目標とします。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1 名，日本内科学会総合内科専門医 1 名 日本神経学会指導医 5 名，日本神経学会専門医 6 名，日本循環器学会循環器専門医 1 名，日本てんかん学会指導医 1 名，日本てんかん学会専門医 2 名，日本頭痛学会指導医 1 名，日本頭痛学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 1,557 名 (1 ヶ月平均患者数) 入院患者 1,583 名 (1 ヶ月平均延患者数)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域，70 疾患群のうち多くの神経疾患の内科診療を経験でき，脳神経外科と連携して機能外科手術 (パーキンソン病・てんかん) 評価についても経験できます。
経験できる技術・技能	脳神経外科・神経内科の専門病院において，基本的な神経学的診察，高次機能検査，髄液検査，神経生理検査，脳波判読，CT，MRI，SPECT など神経放射線画像診断，筋生検など，幅広い神経疾患に対する技術・技能について実際の症例に基づきながら幅広く経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，地域に根ざした医療，病診・病病連携，遠隔診療を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本神経学会認定教育施設 日本てんかん学会研修施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本核医学会専門医教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など

46. 北海道消化器科病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当） ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー，当直室が整備されています。 ・病院近傍に提携保育所があり，利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が6名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2017年度実績 医療倫理1回・医療安全2回・感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行う（2017年度実績30回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファランス（2014年度実績 消化器病臨床病理懇話会4回）を定期的に行うし，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器の分野で，定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2017年度実績0演題）を予定しています。
指導責任者	<p>指導責任者：佐々木清貴</p> <p>[内科専攻医へのメッセージ]</p> <p>北海道消化器科病院は消化器疾患の単科病院ではありますが，がん診療連携指定病院に認定されており，各種検査機器，放射線治療装置，病理診断科，緩和ケア病棟などを有しており，診断から治療，終末期に至るまで特に消化器癌に対しては幅広い研修を行うことができます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 6名，日本内科学会総合内科専門医 2名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 6名，日本消化器内視鏡学会専門医 6名</p> <p>日本超音波医学会専門医 1名，日本大腸肛門病学会 専門医 1名ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 3000名（1ヶ月平均），入院患者 226名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。特に消化器疾患については稀な症例についても経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に消化器領域においては，より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根差した医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定医教育関連施設

(内科系)	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本超音波医学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本がん治療認定医療機構認定研修施設
-------	---

47. 北海道立羽幌病院

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度協力型病院です。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・北海道立羽幌病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が北海道庁に整備されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科学会指導医が2名在籍しています。 ・施設内で研修する専攻医の研修を可及的に管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・基幹施設で開催される医療倫理・医療安全・感染対策講習会講習会への受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で開催される研修施設群合同カンファレンスへの受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で行う CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは退院支連携会議（年3回）など定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，呼吸器，循環器，および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 救急の分野については，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<p>適した症例等があれば，日本内科学会地方会での学会発表（2017年度実績は0）を目標に専攻医を指導致します。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>阿部 昌彦</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>北海道立羽幌病院は，北海道留萌第二次保健医療福祉内の留萌中部・留萌北部地域に位置し，周辺町村の医療を担う地域センター病院として，離島及び地域医療機関との連携や支援体制の整備を図り，医師の派遣，機器の共同利用及び地域の医療技術者を対象とした研修会の開催など，地域医療支援機能の充実に努めています。</p> <p>外来の症例は多分野で多疾患にわたります。高血圧や糖尿病などといった生活習慣病のマネジメントをはじめ，専門疾患に関して専門病院から紹介を受け，連携施設としてフォローアップの対応をすることもあります。また，高齢者が多いことによる複数の内科疾患を有した患者が多いことも特長です。</p> <p>入院は消化器疾患（胃潰瘍・腸閉塞など），肺炎や心不全など多岐にわたります。急性期疾患の管理から，地域の病院として急性期後の一時的な療養や，自宅復帰への支援も行っています。顔の見える多職種連携をめざし，退</p>

	<p>院支援のカンファレンスなどを通じて、地域の介護サービスと密な連携をとりながら実施しています。また、当院まで通院が困難な無医地区・準無医地区への巡回診療も行っています。</p> <p>※北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修の地域医療、老人医療、在宅医療などの経験を通じて内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	2名
外来・入院患者数	外来患者 3,442名 (1ヶ月平均) 入院患者 764名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳にある13領域、70疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・ 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・内科疾患の基本的なマネジメントと専門診療の必要性のトリアージ ・定期外来受診、一般外来受診への対応 ・上下部消化管内視鏡や超音波検査などの検査技術 ・透析患者の管理 ・検診・健診などを通じた疾患の拾い上げ
経験できる地域医療・ 診療連携	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹病院をはじめとした専門病院への紹介を通じた連携 ・近隣の療養型病院・診療所等からの紹介への対応 ・介護福祉サービスとの連携、地域の医療資源を最大限に活かした医療の提供 ・住民への健康教育講座（出前講座） ・離島の診療支援
学会認定施設 (内科系)	内科学会からの認定はありません。

48. 留萌市立病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・留萌市常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（こころの相談室）があります。 ・ハラスメント防止委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室や更衣室などが整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が3名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018年度実績 医療安全12回、感染対策12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2018年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器および循環器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>村松 博士</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>留萌市立病院は、北海道西北部の日本海に面した留萌二次医療圏に位置し、地域のセンター病院として二次救急医療の中心的役割を担っています。北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医2名、日本消化器病学会指導医1名、日本消化器病学会専門医1名、日本内科学会総合内科専門医2名、日本消化管学会胃腸科指導医1名、日本肝臓学会指導医1名、日本消化器内視鏡学会指導医1名、日本消化器内視鏡学会専門医1名、日本循環器学会循環器専門医1名、日本プライマリ・ケア認定指導医1名
外来・入院患者数	外来患者 10,015名（1ヶ月平均） 入院患者 179名（1日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

49. 手稲溪仁会病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<p>初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</p> <p>研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</p> <p>メンタルストレスに適切に対処する部署「まめやか相談室」があります。</p> <p>ハラスメントに対応する「コンプライアンス室」があります。</p> <p>女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</p> <p>敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</p>
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 19 名在籍しています。 ・ 内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 <p>共通講習を定期的で開催（医療安全 2 回、医療倫理 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <p>専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 11 体、2018 年度 8 体）を行っています。</p>
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 5 演題（2018 年実績）以上の学会発表をしています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的で開催しています。
指導責任者	<p>豊富な症例を生かし、自由度の高い専門研修を目指しています。また専攻医には初期研修医への指導もお願いしており、当院ならではの経験の場を提供できると考えております。</p> <p>一緒にがんばりましょう。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本消化器学会専門医 6 名、日本消化器学会指導医 5 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本呼吸器学会指導医 2 名、日本血液学会専門医 4 名、日本血液学会指導医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本リウマチ学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 4 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本腎臓学会指導医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名、ほか多数</p>
外来・入院患者数	<p>※2018 年度の内科一ヶ月平均</p> <p>外来患者数：3,993 名（延べ）・入院患者数：8,002 名（延べ）</p>
経験できる疾患群	<p>極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例をほぼ経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本高血圧学会専門医制度研修施設</p> <p>日本プライマリ・ケア学会認定医制度認定研修施設</p> <p>日本家庭医療学会後期研修プログラム認定施設</p> <p>日本老年医学会認定老年病専門医制度認定施設</p> <p>日本血液学会専門医制度研修施設</p> <p>日本内分泌・甲状腺外科学会専門医認定施設</p> <p>日本呼吸器学会専門医制度認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医認定医制度認定施設</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本消化管学会胃腸科指導施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設</p> <p>日本肝臓学会専門医制度認定施設</p> <p>日本胆道学会認定指導医制度指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医制度循環器研修施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設</p> <p>日本リウマチ学会認定教育施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器科）</p> <p>日本アレルギー学会準認定教育施設（総合内科・小児科）ほか</p>

50. 時計台記念病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修指定病院です。 研修医に必要な当直室、インターネット環境を有しています。 社会医療法人社団カレスサッポロ 時計台記念病院常勤医師として労務環境が保証されます。 院内の労働安全衛生委員会においてメンタルヘルスの窓口を設置し、対応を行っております。 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。 法人の運営する企業主導型保育園を併設しております。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が2名在籍しています。 内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療安全、感染対策委員会、他各種委員会を設置しており毎月1回の会議を行っています。 全職員を対象とした研修会を年に複数回開催しています。 基幹施設で開催される研修施設群合同カンファレンスへの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 基幹施設で行うCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> 消化器内科、循環器内科、腎臓内科および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会、同地方会で年間計1演題以上の発表の機会があります。
指導責任者	<p>浦澤 一史</p> <p>【専攻医へのメッセージ】</p> <p>時計台記念病院は、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、消化器外科、婦人科、脳神経外科、眼科、リハビリテーション科の医師が常勤医として勤務しており、多様な症例を経験できる病院です。</p> <p>また、検診、訪問診療、訪問リハビリテーション等も行っており地域医療・保険・福祉に貢献する医療機関となっています。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会 認定内科医 5名
外来・入院患者数	<p>外来患者 1,500人 (1カ月平均)</p> <p>入院患者 194人 (1カ月平均)</p>
病床	250床
経験できる疾患群	消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、腎疾患等、幅広い領域の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術を、実際の症例で経験することが可能です。

経験できる地域医療・診療連携 学会認定施設 (内科系)	病病連携、病診連携、僻地医療支援など多くの医療施設と連携を有しており、急性期医療に加えて、地域に根ざした医療を経験することができます。
-----------------------------------	---

51. 医療法人北晨会恵み野病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する外部機関と提携しています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が3名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014年度実績医療倫理1回、医療安全4回、感染対策3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2014年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスも今後定期的に開催することを予定し、専攻医に参加するための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓（糖尿病性）の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績1演題）をしています。
指導責任者	<p>森合 哲也</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>恵み野病院は北海道恵庭市にあり、急性期一般病床199床を有し、恵庭、千歳、北広島等をカバーする対象人口22万人以上の医療圏のなかにあり、その地域中核病院の役割を担っています。</p> <p>※北海道大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3名、日本内科学会総合内科専門医 7名、日本消化器病学会消化器専門医 3名、日本消化器内視鏡学会指導医 2名、日本消化器内視鏡学会専門医 2名、日本循環器学会循環器専門医 4名、日本糖尿病学会指導医 3名、日本肝臓学会肝臓専門医 1名、日本血液学会血液指導医 1名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 9,543名（1ヶ月平均） 入院患者 4,837名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会専門医制

	度関連施設 日本糖尿病学会認定教 育施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 浅大腿動脈ステントグラフ実施施設
--	--

3) 専門研修特別連携施設

1. 総合病院浦河赤十字病院

<p>認定基準</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<p>・初期臨床研修における地域医療研修施設です。</p> <p>・研修に必要な医局図書室とインターネット環境があります。</p> <p>・浦河赤十字病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。</p> <p>・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。</p> <p>・ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が浦河赤十字病院内に設置されています。</p> <p>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。</p>
<p>認定基準</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</p> <p>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績4回）しています。</p> <p>・放射線診断合同カンファレンス定期的で開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。</p> <p>・病理合同カンファレンス定期的で開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。</p>
<p>認定基準</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，呼吸器，および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。</p>
<p>認定基準</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015年度実績 0 演題）を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>松浦喜徳</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>浦河赤十字病院は北海道の日高東部あり，昭和 14 年の創立以来，地域医療に携わる，管内唯一の総合病院として地域センター病院，災害拠点病院，へき地医療拠点病院の指定を受け，人工透析，在宅医療，健診医療と「医療・保健・福祉」のバランスを取りながら過疎地域の医療を担っている病院です。理念は「浦河赤十字病院は，地域の人々が生涯を通して健やかに安心して暮らせる社会の形成に貢献することを目指します」</p> <p>1. 私たちは生命尊重と人間愛に基づき人と人，心と心のふれあう病院を目指します。</p> <p>2. 患者さんの安心・納得・安全を心がけ，信頼される医療サービスを提供いたします。</p> <p>3. 地域の保健・医療・福祉との連携を深め，その中核病院としての責任を果たします。</p> <p>外来では地域の病院として，内科一般および専門外来の充実に努め，健診・ドックの充実に努めています。</p>

	<p>医療療養病床としては、①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰、④在宅患者（自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰、に力を注いでいます。</p> <p>在宅医療は、医師2名による訪問診療をおこなっています。病棟・外来・併設訪問看護ステーション・との連携のもとに実施しています。</p> <p>病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 0名、日本内科学会総合内科専門医 0名
外来・入院患者数	外来患者 3439名 (1ヶ月平均) 入院患者 98.7名 (1日平均)
病床	246床 (医療療養病床 51床 一般病床 145床 精神科病床 50床休棟)
経験できる疾患群	研修手帳にある13領域、70疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	<p>内科専門医に必要な技術・技能を、療養病床であり、かつ地域の一般内科という枠組みのなかで、経験していただきます。</p> <p>健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ。</p> <p>急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について。患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。</p> <p>嚥下機能評価、および口腔機能評価による、機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み。</p> <p>褥創についてのチームアプローチ。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整。</p> <p>在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について。</p> <p>地域においては、連携している老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、入院受入患者診療。地域の他事業所との医療・介護連携。</p> <p>地域における産業医・学校医としての役割。</p>
学会認定施設 (内科系)	

2. 社会福祉法人北海道社会事業協会 余市病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・社会福祉法人北海道社会事業協会余市病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当）があります。 ・敷地内に保育所があり，利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，呼吸器，感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>安藤 佐知子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は，北後志地域 5ヶ町村（余市町，仁木町，古平町，積丹町，赤井川村）からなる人口約 3 万 1 千人の地域です。ここには本格的な入院診療に対応できる病院は当院しかありません。したがって，余市病院は地域の救急および急性期から慢性期，さらには在宅までを含めた包括的な診療を行う，まさに地域医療の第一線病院です。</p> <p>救急についても断らない体制をとっており，救急隊と連携し，年間 1 千台を超える救急車の受け入れを行っています。</p>
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 0 名，日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院患者数	外来患者 230 名（1 日平均） 入院患者 125 名（1 日平均）
病床	170 床（一般病棟 60 床，障害者病棟 58 床，回復期リハ病棟 45 床，療養病棟 7 床）
経験できる疾患群	<p>研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験できます。</p> <p>高齢者は複数の疾患を併せ持つため，疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。</p> <p>このとき，複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施していただきます。</p> <p>終末期ケア，緩和ケア，認知症ケア，褥瘡ケア，廃用症候群のケア，嚥下障害を含めた栄養管理，リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。</p>

経験できる地域医療・診療連携 学会認定施設 (内科系)	当院は医師，看護師，リハビリ療法士，薬剤師，管理栄養士，MSW によるスキルミクス（多職種連携）を実践しています。チーム医療における医師の役割を研修します。 またすぐ隣にある特別養護老人ホームへの往診，訪問看護ステーションと連携した在宅診療を実施できます。
-----------------------------------	---

3. 道立江差病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・北海道立江差病院常勤又は非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が北海道庁に整備されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるよう休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に保育所があり，利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・救急科専門医が 1 名，循環器内科医が 2 名及び総合診療医が 1 名在籍しています。 ・施設内で研修する専攻医の研修を可及的に管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・基幹施設で開催される医療倫理・医療安全・感染対策講習会講習会への受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で開催される研修施設群合同カンファレンスへの受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設で行う CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型の医療介護連携会議（月 1 回）などを定期的で開催しており，専攻医に参加を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，循環器及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	適した症例等があれば，日本内科学会地方会での学会発表（2018 年度実績は 0）を目標に専攻医を指導致します。
指導責任者	<p>伊藤 靖</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は，南檜山保健医療福祉圏域（江差町，上ノ国町，厚沢部町，乙部町，奥尻町）の地域センター病院として，圏域内の他の医療機関との連携や支援，医療機器の共同利用を促進するなど二次医療の充実に努めています。</p> <p>救急医療については，救急隊と連携し，年間約 500 台の救急車を受け入れ，約 50 件の道南ドクターヘリ運航に協力しています。</p> <p>常勤の整形外科専門医，泌尿器科専門医，産婦人科専門医，精神科専門医，小児科専門医，救急科専門医の他，内科（循環器）専攻医，非常勤の内科各科，外科，麻酔科，耳鼻咽喉科，眼科，皮膚科，放射線科等との日常診療での連携により，多岐にわたる地域医療の中における内科診療の重要性を学ぶことができます。</p>
指導医数 （常勤医）	日本救急医学会救急科専門医，社会医学系専門医・指導医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 295 名（1 日平均） 入院患者 60 名（1 日平均）
病床	198 床（一般病棟 146 床，精神科病棟 48 床，感染症 4 床）

経験できる疾患群	<p>研修手帳にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験できます。</p> <p>高齢者は複数の疾患を併せ持つため, 疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。</p> <p>このとき, 複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施していただきます。</p> <p>終末期ケア, 緩和ケア, 認知症ケア, 褥瘡ケア, 廃用症候群のケア, 嚥下障害を含めた栄養管理, リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。</p>
経験できる地域医療・診療連携 学会認定施設 (内科系)	<p>当院は医師, 看護師, 理学療法士, 作業療法士, 薬剤師, 管理栄養士によるスキルミクス (多職種連携) を実践しています。チーム医療における医師の役割を研修します。</p>

4. 利尻島国保中央病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な個人の机，インターネット環境（Wi-Fi），図書室，宿舎があります。 ・本院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，病院敷地内の宿舎を当直室として利用できます。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・基幹施設で行う CPC，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講の機会を与えます。 ・院内で定期的に行われるセミナーの受講を義務付け，その時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科及び救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。離島ということもあり，限られた医療資源の中で応用力・適用力を生かした医療を行う経験を提供します。</p> <p>また，島外への医療搬送（防災ヘリ，フェリーなど）の症例数もあり，経験できます。もちろん，通院できない方のための訪問診療にも力を入れています。</p>
認定基準 4) 学術活動の環境	<p>研修指導医が救急科専門医のため，症例に恵まれれば，日本救急医学会，日本臨床救急医学会での発表の機会があります。また，内科学会地方会での発表も予定しています。</p>
指導責任者	<p>浅井 悌</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>本院は，利尻島（人口 4,700 人程度）唯一の病院です。島民の健康維持管理及び，救急時には断ることなく対応します。限られた医療資源の中，重症度や病態に関わらず患者を診ることができるため，幅広い知識と応用力が身につきます。また，地域の介護施設とも連携しており，高齢者の一時的な入院，リハビリ，退院支援，退院後の往診など一人の患者の健康維持の最初から最後まで経験することができます。そのため，島民一人一人の健康を守る全人的医療を経験してもらうことができます。</p> <p>しかし，島内で医療が完結できるわけではありません。必要な症例はヘリ（ドクターヘリ，防災ヘリ）やフェリーなどで島外搬送することもあり，その患者搬送に必要な知識，技術も習得していただきます。</p>
指導医数 （常勤医）	日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	<p>外来患者 83 名</p> <p>入院患者 17 名（平成 30 年度 1 日平均）</p>
病床	42 床（急性期 一般病棟）

経験できる疾患群	<ul style="list-style-type: none"> ・内科領域全般（老年内科と総合内科） ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療，全身管理，今後の治療方針の考え方等について学ぶことが出来ます。 ・小児救急疾患（感染症，下痢症など）
経験できる技術・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専門医に必要な技術・技能を島内唯一の本院にて経験していただきます。内科のみならず，様々な疾患，病態に対するファーストレスポンスとして，総合内科的発想と技術の取得を目指します。 ・島民の検診事業として，上部消化管内視鏡・下部消化管内視鏡を実施しております。消化器内科医の指導のもと，内視鏡の研修も可能です。 ・高齢化率が高いため，地域の誤嚥性肺炎の発生予防のため，口腔ケアから嚥下造影検査まで，島民一人一人の“口から食べる”機能を温存するための考え方，知識，技術も経験できます。 ・当院では，低栄養・ADL 低下などによる褥瘡患者も積極的に診療しております。静脈系腸栄養学会の認定の指導による栄養状態の評価，栄養療法，また，内科系の医師でも可能な褥瘡の処置などを経験していただけます。 ・年間400件程度の救急対応，また，月4回ほどの島外への医療搬送を経験していただきます。そのための，内科・外科問わない救急医学の知識，AHA のガイドラインに基づく心肺蘇生の技術，搬送中の患者アセスメントの技術，医療器材の使用方法などを習得していただきます。
経験できる地域医療・診療連携 学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> ・連携している特別養護老人ホームへの訪問診療及び急変時の診療連携 ・地域における産業医，学校医等としての役割 ・島内各診療所及び施設との診療連携及び急変時の診療連携 ・本院退院後の患者の往診など

5. 八雲総合病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型指定病院です。 ・研修医師に必要な図書室, 研修医師専用当直室, インターネット環境があります。 ・八雲総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・医師専用住宅が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり, 共働きの場合利用可能です。
設定基準 2) 専攻医研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策委員会設置 毎月定期的に委員会開催 (年 2 回程度, 全職員を対象とする研修会を開催。昨年度実績 延べ 150 人参加) 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催 (毎年 1 回) し, 専攻医に参加を義務付け, そのための時間的余裕を与えます。
設定基準 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 1 3 分野のうち, 総合内科, 消化器, 血液, 及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
設定基準 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは, 同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	<p>能登谷 京</p> <p>【専攻医へのメッセージ】</p> <p>八雲総合病院は, 内科を始め産婦人科, 小児科, 外科, 整形外科, 精神科, 脳外科の医師が固定しており, ゆりかごから終末期まで一元的に診ることのできる病院です。</p> <p>また, 検診部門があり, 訪問医療, 無医地区巡回診療にも力を入れており, 地域の医療・保健・福祉を担っております。※大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラム連携施設として内科専門研修を行い, 内科専門の育成を行います。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 0 名 日本消化器病学会専門医 1 名 日本血液学会専門 1 名 他
外来・入院患者数	外来患者 568 人 (1 日平均) 入院患者 264 人 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患項目表) にある 1 3 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	八雲町には総合病院の他, 99 床の熊石国保病院があります。また, 特別養護老人ホーム, 老人保健施設があり, 急性期医療だけでなく, 超高齢化社会に対応した, 地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。

年次到達目標

内科専攻研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※ 3
症例数※5		200以上 (外来は最大 20)	160以上 (外来は最大 16)	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例)「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

北海道大学病院内科専門研修プログラム管理委員会 (2020年4月現在)

■北海道大学病院

豊嶋 崇徳	(統括責任者, 内科長, 血液内科科長)
今野 哲	(内科 I 科長)
渥美 達也	(内科 II 科長)
坂本 直哉	(副統括責任者, 消化器内科科長)
安斉 俊久	(循環器内科科長)
秋田 弘俊	(腫瘍内科科長)
石森 直樹	(統括マネージャー, プログラム管理者)
小野澤真弘	(臨床研修センター講師)
河野 通仁	(内科 II, 日本内科学会北海道支部幹事)

■連携施設

全 54 施設より各 1 名選任

■外部評価委員

佐藤 伸之	(旭川医科大学教育センター教授)
白鳥 正典	(札幌医科大学病院管理学准教授)

北海道大学病院内科研修委員会	(2020年4月現在)
----------------	-------------

■北海道大学病院

石森 直樹	(プログラム管理者, 循環器内科特任准教授)
木村 孔一	(内科 I)
中村 昭伸	(内科 II 診療講師)
小野 尚子	(消化器内科講師)
後藤 秀樹	(血液内科助教)
竹内 啓	(腫瘍内科助教)
矢部 一郎	(神経内科准教授)
小野澤真弘	(臨床研修センター講師)
河野 通仁	(内科 II, 日本内科学会北海道支部幹事)

北海道大学病院 JMECC 運営委員会	(2020年4月現在)
---------------------	-------------

■北海道大学病院

渡部 拓	(内科 I 助教, JMECC インストラクターNo. 1144)
鈴木 雅	(内科 I 助教, アシスタントインストラクター)
曹 圭龍	(内科 II 特任助教, アシスタントインストラクター)
川久保和道	(消化器内科 (留学中), JMECC インストラクターNo. 675)
栗谷 将城	(消化器内科助教, JMECC インストラクターNo. 1005)

村中 徹人 (消化器内科医員, JMECC インストラクターNo. 1364)
石森 直樹 (循環器内科特任准教授, JMECC インストラクターNo. 772)
神谷 究 (循環器内科特任助教, JMECC インストラクターNo. 1113)
荒 隆英 (血液内科助教, JMECC インストラクターNo. 1274)
金谷 穰 (血液内科 (留学中) , アシスタントインストラクター)
横山 翔大 (血液内科リサーチレジデント, アシスタントインストラクター)
松島 理明 (神経内科助教, JMECC インストラクターNo. 771)
白井 慎一 (神経内科特任助教, JMECC インストラクターNo. 888)
岩田 育子 (神経内科助教, JMECC インストラクターNo. 1358)
佐藤 智香 (神経内科医員, アシスタントインストラクター)
竹内 啓 (腫瘍内科助教, アシスタントインストラクター)
小野澤真弘 (臨床研修センター講師, JMECC インストラクターNo. 521)

■北海道中央労災病院

猪又 崇志 (JMECC ディレクターNo. 401)

■KKR 斗南病院

本間 理央 (JMECC インストラクターNo. 930)

■札幌北榆病院

岡田 耕平 (JMECC インストラクターNo. 1002)

■北海道医療大学

坊垣 暁之 (JMECC インストラクターNo. 776)

■厚生労働省

大原 正嗣 (JMECC インストラクターNo. 991)

北海道大学病院 内科専門研修プログラム (2021年度版)



専攻医研修マニュアル・・・・・・・・・・資料4

文中に記載されている資料「専門研修プログラム整備基準」「研修カリキュラム項目表」「研修手帳（疾患群項目表）」「技術・技能評価手帳」は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

1. 研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先

- 1) 病院での総合内科的視点を持った Subspecialist : 病院で内科系の Subspecialty, 例えば消化器内科や循環器内科に所属し, 総合内科 (Generalist) の視点から, 内科系 Subspecialist として診療を実践します. 臨床系大学院へ進学される場合には, 修了後には国内・国外留学を経験し, Physician Scientist として医学・医療の発展に貢献します.
- 2) 病院での内科系救急医療の専門医 : 病院の救急医療を担当する診療科に所属し, 内科系急性疾患や救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な, 地域での内科系救急医療を実践します.
- 3) 病院での総合内科 (Generality) の専門医 : 病院の総合内科に所属し, 内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち, 総合的医療を実践します.
- 4) 地域医療における内科領域の診療医 (かかりつけ医) : 地域において常に患者と接し, 内科慢性疾患に対して, 生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します. 地域の医院に勤務 (開業) し, 実地医家として地域医療に貢献します.

2. 専門研修の期間

内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修 (後期研修) 3～4年間の研修で育成されます.

3. 研修施設群の各施設名

■基幹病院 : 北海道大学病院

■連携施設 : 国家公務員共済組合連合会斗南病院, NTT 東日本札幌病院, J A 北海道厚生連札幌厚生病院, 市立札幌病院, 医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院, 天使病院, KKR 札幌医療センター, 独立行政法人地域医療機能推進機構北海道病院, 独立行政法人地域医療機能推進機構札幌北辰病院, 社会医療法人北楡会札幌北楡病院, 北祐会神経内科病院, 社会医療法人孝仁会北海道大野記念病院, 医療法人徳洲会札幌徳洲会病院, 医療法人菊郷会愛育病院, 江別市立病院, 医療法人溪和会江別病院, 市立千歳市民病院, 函館中央病院, 市立函館病院, 社会福祉法人北海道社会事業協会小樽病院, 旭川赤十字病院, 市立旭川病院, 王子総合病院, 苫小牧市立病院, 総合病院伊達赤十字病院, 総合病院釧路赤十字病院, 独立行政法人労働者健康安全機構釧路労災病院, 市立釧路総合病院, J A 北海道厚生連帯広厚生病院, 公益財団法人北海道医療団帯広第一病院, 社会福祉法人北海道社会事業協会帯広病院, 北見赤十字病院, J A 北海道厚生連網走厚生病院, 独立行政法人労働者健康安全機構北海道中央労災病院, 岩見沢市立総合病院, 栗山赤十字病院, 独立行政法人労働者健康安全機構

北海道せき損センター，市立稚内病院，砂川市立病院，滝川市立病院，独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター，独立行政法人国立病院機構北海道医療センター，独立行政法人国立病院機構函館病院，さっぽろ神経内科病院，社会医療法人医仁会中村記念病院，北海道消化器科病院，北海道立羽幌病院，留萌市立病院，手稲溪仁会病院，時計台記念病院，恵み野病院

■特別連携施設：総合病院浦河赤十字病院，社会福祉法人北海道社会事業協会余市病院，道立江差病院，利尻島国保中央病院，八雲総合病院

4. プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について，責任を持って管理するプログラム管理委員会を北海道大学病院に設置し，その委員長と7つの内科系診療科から1名ずつ管理委員を選任します。

プログラム管理委員会の下部組織として，基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き，委員長が統括します。

2) 指導医一覧：別途作成予定

5. 各施設での研修内容と期間

本プログラムでは，研修開始時に北海道大学病院の7つの内科系診療科のいずれかに「所属」していただき，専攻医の理想とする専門医像や本人の希望をもとに研修を進めていただきます。

専攻医は3～4年間，北海道大学病院と連携施設で内科専門研修と Subspecialty 専門研修を並行して行います。北海道大学病院での研修は1年以上3年以下で，残りの期間は連携施設で研修します。北海道大学病院での研修時期は，研修の進捗状況を勘案して，専攻医と Subspecialty 専攻科が相談して決定します。

専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は，所属する内科系診療科の教授と協議の上，早ければ専攻医3年次に入学可能です。

6. 主要な疾患の年間診療件数

内科専門医[研修カリキュラム](#)に掲載されている主要な疾患については，北海道大学病院（基幹病院）のDPC病名を基本とした内科系各診療科における疾患群別の入院患者数（H28年度）を調査し，ほぼ全ての疾患群が充足されることが解っています（外来での経験も含める）。ただし，研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり，初期研修時での症例をもちろん登録し，毎年秋に次年度の研修施設の出向調整をする際，研修員会で専攻医の研修進捗状況を考慮することで，必要な症例経験を積むことができます。

7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

専攻医は Subspecialty 指導医や上級医師から，Subspecialty 専門領域での知識・技術を学習す

るのみならず、内科医としての基本姿勢を体得することにより、内科専門医取得へのモチベーションを強化することができます。また、北海道大学病院での研修中は、研修進捗状況を参考に初期研修期間を含め過去に経験しなかった内科領域の診療科を原則として2～3ヶ月間ローテートして、内科系診療領域全般において診療経験する様に努めます。

8. 自己評価と指導医評価ならびに360度評価を行う時期とフィードバックの時期

1) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、適宜指導医による面談を行って、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

2) 指導医による評価と360度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医がJ-OSLERに登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に1回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。毎年、指導医とメディカルスタッフによる複数回の360度評価を行い、態度の評価が行われます。

9. プログラム修了の基準

専攻医研修最終年次の3月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

10. 専門医申請に向けての手順

J-OSLERを用います。同システムでは以下をwebベースで日時を含めて記録します。具体的な入力手順については内科学会HPから”専攻研修のための手引き”をダウンロードし、参照してください。

- 専攻医は全70疾患群の経験と200症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低56疾患群以上160症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる360度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全29症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要

約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行います。

- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

11. プログラムにおける待遇

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、北海道大学の専攻医就業規則及び給与規則に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

12. プログラムの特色

本プログラムでは、研修開始時に北海道大学病院の7つの内科系診療科のいずれかに「所属」していただき、専攻医の理想とする専門医像や本人の希望のもと研修を進めていただきます。また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、所属する内科系診療科の教授と協議の上、早ければ専攻医3年次に臨床系大学院への入学の機会が与えられます。

13. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

内科学における13のSubspecialty領域を順次研修します。基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各Subspecialty領域に重点を置いた専門研修を行うことがあります。本プログラム終了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進むために適切なアドバイスやサポートを行います。

14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

15. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会に相談します。